

令和4年度

小・中学校における
租税教育実践報告

仙台南地区租税教育推進協議会



発刊にあたって

仙台南地区租税教育推進協議会長
山元町教育委員会
教育長 菊池卓郎

皆様には、日頃から、仙台南地区租税教育推進協議会に対しまして、深い御理解と御協力を賜っておりますことに厚く御礼申し上げます。

未だ収束の見えない新型コロナウイルス感染症ですが、今年度は3年ぶりに座談会を開催し、昨年再開した研究発表会、実践報告書発刊と併せて、コロナ禍前に行っていた主要な事業をひとつとおりに実施することができ、嬉しく思っております。関係各位の御高配に深く感謝申し上げますとともに、租税教育に取り組んでいただいた学校及び教職員の皆様に、心から敬意を表する次第です。

租税教育は、次代を担う児童生徒が、税を通じて国や社会の仕組みを知り、社会を支える租税の意義・役割を正しく理解して、将来、納税者として義務を果たすことだけでなく、主体的に社会参画する意識をも育む大事な教育です。

また、税金が、身近な公共事業や社会保障、頻発している災害の復旧などのために幅広く使われ、私たちの豊かで安全・安心な生活を支えているということをきちんと知ることは、自分たちが住む地域に目を向けさせ、地域の将来を考えさせる大変いい機会にもなります。

今年度の発表会では、租税教育に取り組んだ名取市立ゆりが丘小学校、岩沼市立岩沼西小学校、亘理町立亘理中学校、山元町立山下第二小学校の各校から、興味・関心をもって授業に取り組む児童生徒の姿、ICT機器をうまく活用した授業実践、実践を通しての成果や課題などが紹介されました。特に、どの学校からも、児童・生徒の税に対する理解の深まりとともに、意識にも大きな変化が見られることが成果として挙げられ、租税教育を行うことの意義を強く感じたところです。

担当された先生方には、お忙しい中、租税教育の実践だけでなく、研究発表のための資料作成や準備等に注力し、すばらしい発表を行っていただいたことに感謝申し上げます。この実践報告書を通して租税教育の輪がさらに広がり、子供たちが起点となって租税の意義・役割が正しく周知されていくことを期待いたします。

結びに、本報告書発刊に御尽力いただきました仙台南税務署の皆様にも心から感謝申し上げますとともに、関係各位の今後ますますの御健勝と御活躍を祈念し挨拶いたします。

令和5年3月

目 次

1	仙台南地区租税教育推進協議会のあゆみ	1
2	令和4年度 租税教育推進協議会の主な活動状況	3
3	令和4年度 租税教育研究発表要項（順不同・敬称略）	
(1)	「税を身近なものとして捉え、知識を深めるための指導の工夫」	11
	～ I C T機器の効果的な活用を通して～	
	名取市立 ゆりが丘小学校	小林 敏之 教諭
(2)	「児童が納税や政治に興味・関心をもち、考えを深める指導の工夫」	27
	～身近な地域（岩沼市）を題材とした学習活動の工夫～	
	岩沼市立 岩沼西小学校	先崎 晴香 教諭
(3)	「租税の意義や現状を正しく理解し、納税者として税制の在り方や関わり方を主体的 に考えることができる生徒の育成」	45
	～国税庁や財務省の資料を活用し、自ら考える学習を通して～	
	亘理町立 亘理中学校	児玉 彩夏 教諭
(4)	「税に関する関心を高め、「まちづくり」にいかそうとする児童の育成」	57
	～「未来の山元町」について調べ、意見交流する学習を通して～	
	山元町立 山下第二小学校	高橋 丈喜 教諭
(参考資料)	租税教育実践発表一覧	67
	令和4年度 仙台南地区租税教育推進協議会 役員名簿	75

1 仙台南地区租税教育推進協議会のあゆみ

(1) 設 立

この会は、仙台南地区の税務及び教育関係者が協力して、児童・生徒並びに社会人に対する租税教育を推進し、納税道義の高揚に必要な事項について協議し、また、連絡協調を図ることを目的としている。

当協議会は、昭和62年3月25日の設立準備委員会を経て、次の機関構成をもって、昭和62年5月25日に設立されている。

(2) 構成機関

構 成 機 関 名	
教 育 関 係 機 関	税 務 関 係 機 関
宮城県教育庁仙台教育事務所 名取市教育委員会 岩沼市教育委員会 亘理町教育委員会 山元町教育委員会 各地区校長会	仙台南税務関係団体協議会 宮城県仙台南県税事務所 名取市役所 岩沼市役所 亘理町役場 山元町役場 仙台南税務署

(3) 事業内容

- イ 租税教育の計画策定
- ロ 児童・生徒の租税教育に関する座談会及び研究発表会の開催
- ハ 租税教室の開催
- ニ 税に関する作品募集の支援
- ホ 小・中学校における租税教育実践報告書の作成
- ヘ 租税教育用教材の提供
- ト 税を考える週間行事への協力

(4) 歴代会長

初代	昭和62年5月25日	～	平成元年6月13日	岩沼市教育委員会	教育長	遠藤	幸四郎
2代	平成元年6月13日	～	平成5年6月1日	名取市教育委員会	教育長	佐々木	健
3代	平成5年6月1日	～	平成8年10月15日	山元町教育委員会	教育長	菅野	丈治
4代	平成8年10月15日	～	平成13年6月8日	亶理町教育委員会	教育長	三品	堯明
5代	平成13年6月8日	～	平成14年12月31日	岩沼市教育委員会	教育長	砂金	勲
6代	平成15年1月1日	～	平成15年6月10日	岩沼市教育委員会	教育長	影山	一郎
7代	平成15年6月10日	～	平成16年9月30日	名取市教育委員会	教育長	太田	洋一
8代	平成16年10月1日	～	平成17年6月2日	名取市教育委員会	教育長	阿部	哲男
9代	平成17年6月2日	～	平成19年3月31日	山元町教育委員会	教育長	佐々木	陽一郎
10代	平成19年5月10日	～	平成19年6月1日	山元町教育委員会	教育長	横山	俊二
11代	平成19年6月1日	～	平成21年6月1日	亶理町教育委員会	教育長	鈴木	光範
12代	平成21年6月1日	～	平成23年6月24日	岩沼市教育委員会	教育長	影山	一郎
13代	平成23年6月24日	～	平成25年6月20日	名取市教育委員会	教育長	丸山	春夫
14代	平成25年6月20日	～	平成27年6月26日	山元町教育委員会	教育長	森	憲一
15代	平成27年6月26日	～	平成29年6月28日	亶理町教育委員会	教育長	岩城	敏夫
16代	平成29年6月28日	～	令和元年7月2日	岩沼市教育委員会	教育長	百井	崇
17代	令和元年7月2日	～	令和3年7月16日	名取市教育委員会	教育長	瀧澤	信雄
18代	令和3年7月16日	～		山元町教育委員会	教育長	菊池	卓郎

2 令和4年度 租税教育推進協議会の主な活動状況

○ 児童・生徒の租税教育に関する座談会

(内容) 研究発表会に向け、児童・生徒の租税教育に直接携わっている教員同士の意見交換を分科会方式で実施した。

年 月 日	令和4年8月22日(月)
場 所	名取市文化会館
出 席 者	仙台南地区租税教育推進協議会役員 教育関係者・関係民間団体・税務関係官庁 令和3年度、令和4年度、令和5年度研究発表(予定)校

○ 児童・生徒の租税教育に関する研究発表会

(内容) 研究発表指定校の教員が、租税教育に関する研究内容を発表した。

年 月 日	令和4年11月16日(水)																				
場 所	坂元地域交流センター・ふるさとおもだか館																				
発 表 者	<table border="0"> <tr> <td>名取市立</td> <td>ゆりが丘小学校</td> <td>教 諭</td> <td>小 林</td> <td>敏 之</td> </tr> <tr> <td>岩沼市立</td> <td>岩沼西小学校</td> <td>教 諭</td> <td>先 崎</td> <td>晴 香</td> </tr> <tr> <td>亘理町立</td> <td>亘理中学校</td> <td>教 諭</td> <td>児 玉</td> <td>彩 夏</td> </tr> <tr> <td>山元町立</td> <td>山下第二小学校</td> <td>教 諭</td> <td>高 橋</td> <td>丈 喜</td> </tr> </table>	名取市立	ゆりが丘小学校	教 諭	小 林	敏 之	岩沼市立	岩沼西小学校	教 諭	先 崎	晴 香	亘理町立	亘理中学校	教 諭	児 玉	彩 夏	山元町立	山下第二小学校	教 諭	高 橋	丈 喜
名取市立	ゆりが丘小学校	教 諭	小 林	敏 之																	
岩沼市立	岩沼西小学校	教 諭	先 崎	晴 香																	
亘理町立	亘理中学校	教 諭	児 玉	彩 夏																	
山元町立	山下第二小学校	教 諭	高 橋	丈 喜																	

児童・生徒の租税教育に関する座談会

開催日：令和4年8月22日(月)
開催場所：名取市文化会館



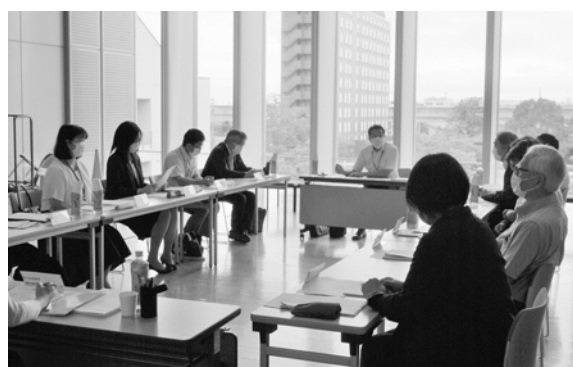
会長あいさつ：山元町教育委員会
菊池 卓郎 教育長



顧問あいさつ：仙台南税務署
三ヶ田 智 署長



第一分科会



第一分科会



第二分科会



第二分科会



第三分科会



第三分科会

児童・生徒の租税教育に関する研究発表会

開催日：令和4年11月16日(水)
開催場所：坂元地域交流センター
・ふるさとおもだか館



会長あいさつ：山元町教育委員会
菊池 卓郎 教育長



祝辞：山元町
佐藤 兵吉 副町長



発表：名取市立 ゆりが丘小学校
小林 敏之 教諭



発表：岩沼市立 岩沼西小学校
先崎 晴香 教諭



発表：山元町立 山下第二小学校
高橋 丈喜 教諭



講評：宮城県総合教育センター
本田 結城子 教職研修班次長(指導主事)



感謝状贈呈



感謝状贈呈



感謝状贈呈



記念品贈呈: 仙台南間税会

令和4年度 租税教育に関する研究発表者

開催日 令和4年11月16日(水)
開催場所 坂元地域交流センター・ふるさとおもだか館



名取市立 ゆりが丘小学校

教諭 小林 敏之

「税を身近なものとして捉え、知識を深めるための指導の工夫」

～ICT機器の効果的な活用を通して～



岩沼市立 岩沼西小学校

教諭 先崎 晴香

「児童が納税や政治に興味・関心をもち、考えを深める指導の工夫」

～身近な地域(岩沼市)を題材とした学習活動の工夫～



亘理町立 亘理中学校

教諭 児玉 彩夏

「租税の意義や現状を正しく理解し、納税者として税制の在り方や関わり方を主体的に考えることができる生徒の育成」

～国税庁や財務省の資料を活用し、自ら考える学習を通して～



山元町立 山下第二小学校

教諭 高橋 丈喜

「税に関する関心を高め、「まちづくり」にいかそうとする児童の育成」

～「未来の山元町」について調べ、意見交流する学習を通して～

令和4年度 租税教育に関する研究発表要項

名取市立ゆりが丘小学校
教諭 小林 敏之

1 研究主題

税を身近なものとして捉え、知識を深めるための指導の工夫
～ I C T機器の効果的な活用を通して～

2 主題設定の理由

学習指導要領の改定に伴い、2020年度から小学校の社会科では公民から学習を始めることになった。よって、税金に関することは令和3年4月に既習済みである。税金は大人が納めるものと捉えがちだが、小学生も消費税という形で納めていることを知ると、児童は驚いた様子であった。自らも納めていることから、税に興味・関心をもたせ身近なものとして捉え、将来納税者になったときに正しい知識を持って義務を果たすようにさせたいと考える。

本校では、平成28年から2年間 I C T活用モデル校に指定されたため、その経験を活かし I C T機器を活用して学習内容をより深いものへとつなげられないかと考えた。国語や社会、理科、総合的な学習の時間などの調べ学習でタブレットを活用してきた。そのため、6年生は、膨大な数の情報の中から、自分に必要なものを取捨選択する技術が身に付いている児童が多い。そこで、 I C T機器の活用を通して、疑問に思ったことや分からないことを調べながら知識を増やし、お互いに調べたことを伝え合う中で、税に関する知識をさらに深めさせたいと思い、本主題を設定した。

3 研究目標

税金に関する授業や租税教室、発表会を通して、税に関する知識を深めるための指導法を探る。

4 研究の方法

- (1) 「わたしたちの生活と政治 ～くらしの中の基本的人権の尊重～（三大義務）」と「子育て支援の願いを実現する政治 ～税金の働き～」(東京書籍)の学習を通して、税金の基礎を知る。
- (2) 税金に関する意識調査を行い、児童の実態や知識を確認する。
- (3) 租税教室を開催し、税金の意義や役割を再確認させる。
- (4) 税金について学習したことから疑問に思ったことや分からなかったことを、調べ学習を通して追究させる。

5 研究計画

令和3年 4月	・税金について
1 1月	・事前調査
1 2月	・租税教室
令和4年 1月	・課題追究学習・まとめ
2月	・発表会 ・事後調査

6 指導計画

次	段階	主な学習活動	時間
1	税金について知ろう (社会)	①教科書(東京書籍)から税について学ぶ。 1. わたしたちの暮らしと日本国憲法 ～暮らしの中の基本的人権の尊重～ 2. 国の政治のしくみと選挙 ～選挙のしくみと税金の働き～ 3. 子育て支援の願いを実現する政治 ～税金の働き～	3
		②事前調査 ・調査紙を用い、児童の税に関する知識を確認する。	
		③租税教室	1
2	課題について調べよう (総合)	①税の学習を通して、疑問に思ったことを調べる。 調べたことをスライドにまとめる。	5
	調べたことを伝えよう (総合)	②発表会を行い、調べた内容を伝え合う。 新たに知ったことをメモする。	1
	事後調査	③児童の税に関する知識の深まりをみる。	

7 研究の概要

【第1次】

①社会科の学習を通して(令和3年4月15日, 4月28日, 5月27日)

1学期の始めに, 社会科の学習を通して税について学んだ。6年生の教科書「新しい社会政治・国際編」で税について始めに触れるのは, 国民の義務として「税金を納める義務」についてである。

次に税金の集められ方と税金の使われ方である。教科書の資料としては, 「ものを買ったとき」, 「市区町村に住んでいる人」, 「会社に勤めている人」, 「自分で商売をしている人」, 「土地や建物をもっている人」という例が挙げられている。具体的に税の名前を知って

いる児童から「消費税」や「所得税」という発言があったため、「住民税」と「固定資産税」という名前も出したところ、メモを取っている児童もいた。

最後に、たくさんの人が必要としている公共的な事業に税金が充てられることを学ぶ。

以上のことから社会科の3時間の学習を通して、児童は税に対する基礎的な知識は身に付けている。

②税に対する事前調査（6年1組 男19名 女11名 計30名）

1学期に社会科の学習で学んだことがどれだけ定着しているのか、あるいはどれだけ知識をもっているのか知るために、以下の事前調査を行った。

令和3年11月11日実施

※全項目自由記述、複数回答可

1 税金は、どのように集められていますか。

- ・消費税16名 ・ものを買った時7名 ・給料から4名 ・募金3名
- ・たばこ税2名 ・車をもっている人から2名 ・国民から2名 ・ガソリン税
- ・所得税 ・住民税 ・もっている土地から ・会社経営者から ・選挙
- ・国からもらう

2 税金は、どんなことに使われていますか。

- ・教科書19名 ・道路整備8名 ・学校を建てる7名 ・施設を建てる6名
- ・学校の用具6名 公園3名 ・災害の復興2名 ・警察2名 ・病院2名
- ・公務員の給料2名 ・ワクチン対策2名 ・国を支えるため2名 ・コロナ保障
- ・年金 ・消防 ・病院の薬代 ・ゴミ収集 ・公衆トイレ ・募金 ・義務教育費
- ・救急車 ・誰でも受けられるサービス

3 税金は、なぜ必要なのでしょう。

- ・国民のため6名 ・学校や施設を建てるため4名 ・教科書を無償にするため3名
- ・道路を整備するため2名 ・人がより快適な生活をするため2名 ・警察官を雇うため2名
- ・町をよくするため2名 ・無回答2名 ・祖父、祖母の生活のため
- ・救急車が有料になってしまうから ・公共施設の整備のため ・公共サービスのため
- ・国の借金返済のため ・医療費が高くなってしまったから ・災害の復興のため
- ・便利な物を作るため ・未来の国のため ・世界のため

上記の結果から、ほとんどの児童が税の集め方や使われ方について、学習したことを覚えていることが分かった。他にもテレビや本で得た知識を持っている児童もいた。税の集め方については、消費税と回答した児童が多く、児童の身近な存在である税であるということが分かる。税の使われ方についても、教科書と回答した児童が半数以上であり、自分たちのために使われていると捉えている児童が多いことが分かる。しかし、税の基礎を学んだだけであり、なんとなく捉えているのみで幅広い知識を持っていなかったり、集め方や使い方「募金」と答えるなど間違った知識を持っていたりする。そこで、租税教室を行い、税について正しい知識

の構築を図り，調べ学習と伝え合う活動を通して，より深い学びにつなげる。

③租税教室（令和3年12月13日）

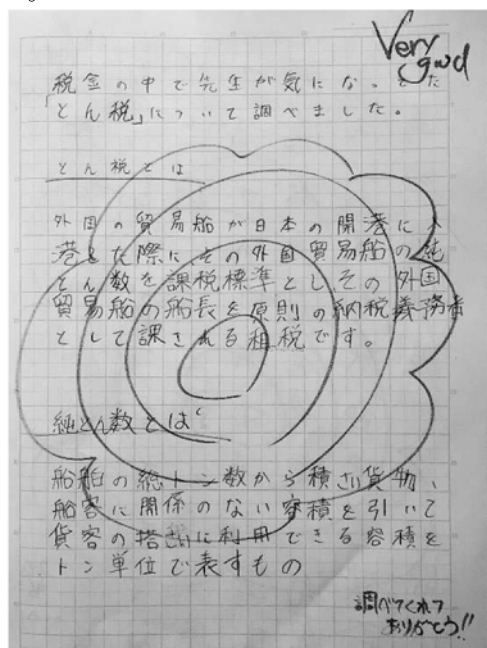
講師：税理士 高橋賢治さん（ハルナカ税務会計事務所）

税理士 渡辺敏幸さん（税理士法人 Sincere）

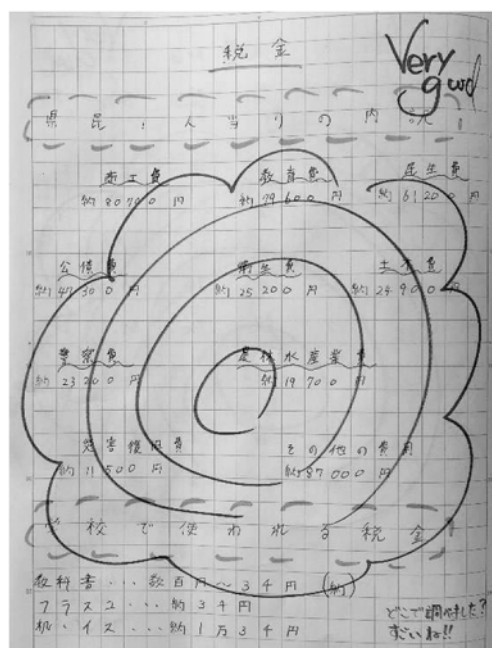
税理士の方2名においでいただき，スライドを使いながら税金の集め方やなぜ必要なのかなどの基礎的な知識から，具体的な税金の種類や累進課税制度のしくみなど発展的な内容を教えていただいた。児童は，教えていただいたことを一生懸命メモし，さらに知りたいことや疑問に思ったことなどがあつたので，それらを追究させ，深い学びへと結び付けることができた。また，租税教室後，自主学習や冬休み中に税について調べてくる児童が数名いて，興味・関心を持たせることができた。



【写真1】租税教室の様子



【写真2】とん税を調べた自主学習



【写真3】県民一人あたりの内訳を調べた自主学習

その他：外国の消費税，税の種類，外国のおもしろい税，税の使い道など

《租税教室後の児童感想》

- ・今まで税というと消費税しか思い浮かばなかったけれど，それ以外にも50種類ほどの税があることを知ることができた。税金の使い道にあった「災害対策」では，具体的にどんなことを行っているのだろう。
- ・税金は，お金を払わなくてはいけなし，「いらないんじゃないかな」と思っていたけれど，今日税金のことを学んで「みんなが負担してみんなが使う，みんなが幸せ」という言葉を聞いて

て、自分一人だけ払っているわけではないし、みんなのため、自分のためにもなるので大切なことだと思った。他の国の税金には、どのようなものがあるのだろう。

【第2次】

①課題について調べよう（1/18）

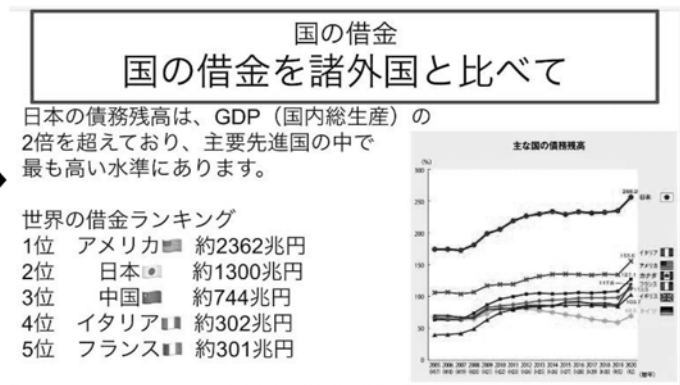
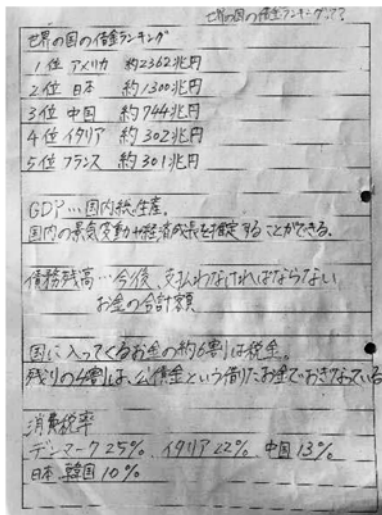
・租税教室の感想より、児童から出た疑問を教師が集約し児童に提示した。そこから、自分が調べたい課題についてアンケートを採り、グルーピングをした。グループ内で、さらにテーマを分けて、個別に調べ学習を進めた。タブレットで調べ活動を進め、分からない言葉があるとさらにその言葉を調べていて追究していく様子が見られた。また、カタログから学校備品の値段を調べ学校に使われている税の金額をまとめたり、税理士にFAXで質問を送り問題解決につながったりしているグループもあった。

児童から出た疑問	さらに興味を持って調べたサブテーマ
1 税の種類	①事業税とは何か。 ②とん税・たばこ税とは何か。 ③ゴルフ場利用税とは何か。 ④都市計画税・印紙税・共同施設税とは何か。
2 学校で使われている税金の内訳	①小学校で使われている税について。 ②中学校で使われている税について ③高校で使われている税について
3 災害対策に使われている税金	①地震対策に使われている税 ②津波対策に使われている税 ③台風対策に使われている税 ④火山対策に使われている税
4 税の集め方	①直接税とは何か。 ②直接税の種類 ③間接税とは何か。 ④間接税の種類
5 教室にある物の値段	学校の物にどのくらいの税金が使われているのか。 ①体育館にある物の値段 ②理科室にある物の値段 ③図工室にある物の値段 ④音楽室にある物の値段
6 国の借金	①なぜ借金があるのか。 ②国の借金はいくらか。 ③諸外国と比べると。
7 外国の税金	①外国はなぜ消費税は高いのか。 ②中国の税金 ③ブラジルの税金 ④アメリカにある税金
8 税理士の仕事	①税理士とは何か。

②税理士はどんな仕事をしているのか。

③税理士になるにはどんな試験を受けるのか。

- ・課題について追究した後は、調べたことを整理しスライドにまとめる作業を行った。たくさんある情報の中から、重要な内容をスライドにまとめ、その他のことは言葉で付け足すよう指導した。自宅でさらに調べてきて、まとめる児童もいたことから意欲的に課題追究に取り組んでいたと考える。また、まとめる作業が苦手な児童も、周りの子に支えながら取り組むことができた。スライドでまとめる様子を見てみると、ICTを活用することは児童に意欲を持たせ、集中して取り組ませる効果があると思われる。しかし、模造紙や新聞に書いてまとめる技能も必要と考えるので、他の学習で取り組ませた。



【写真4】調べて整理したメモをもとにしたスライド

②調べたことを伝えよう

- ・スライドにまとめたことを一人一人発表した。スライド作成は修学旅行のまとめで行っているため、今回で2回目である。そのため、ほとんどの児童が1時間で作成を終え、発表練習に臨んだ。練習中にスライドを修正したり、新たに必要な情報を付け足したりと、教師側が指示しなくても自分で考え集中して取り組んでいた。また、上位群は原稿を用意せず、伝えたいことを資料に合わせながら話す練習をし、表現力の向上にもつなげることができた。クイズを取り入れて聞き手に興味を持ってもらう工夫をする児童もいた。前回の経験を活かし、調べたたくさんの情報を短くまとめさせ、書き切れないことは言葉で説明をさせた。聞いている児童はメモを取り、他の児童が調べたことから新たな知識を得られるようにした。



3入湯税 日本

日本にも「入湯税」という個性的な税金があります。温泉を利用する際に課せられる税金で、基本税額は150円。温泉施設の利用料金や温泉館の前泊施設に上乗せされています。

ここで Quiz

オーストラリアには学校が関係している税金があります。それは次のうちどれでしょう。

1給食税 2学位税 3教務税

正解は.....

学位税

オーストラリアでは、大学を卒業するときに課せられる「学位」に税金が課せられます。オーストラリアの大学はほとんどが国立で、その授業料は国が負担しています。したがって学生は学位税という形で学費を負担し、大学の運営のための財源に充てられています。オーストラリアでは大学はエリートとされ、収入が良い仕事に就きやすい傾向にあり、そこに税の徴収システムの工夫があります。大学を卒業後、一定以上の収入があれば3~6%の範囲で学位税を徴収されます。一方、条件に満たない収入の場合は無税となり、貧困の層があっても子弟は教育を受けられる機会が与えられます。

【写真5】外国の税金をクイズで紹介の様子

③事後調査（6年1組 男19名 女11名 計30名）

令和4年2月21日実施

※全項目自由記述、複数回答可

1 税金は、どのように集められていますか。

- ・消費税 25名 ・ゴルフ場利用税 7名 ・入湯税 7名 ・たばこ税 7名
- ・自動車税（車を持っている人が払う） 5名 ・固定資産税 4名 ・所得税 4名
- ・とん税 4名 ・直接集めたり、間接的に集めたりする 4名 ・法人税 3名
- ・国民→税務署 2名 ・その人に見合った分を国が徴収する 1名 ・印紙 1名
- ・都市計画税 1名 ・共同施設税 1名 ・酒税 1名 ・外国にもある 1名

2 税金は、どんなことに使われていますか。

- ・学校維持 18名（校舎・ピアノ・図工道具・実験器具・体育備品・机・椅子・肋木）
- ・道路整備 14名 ・災害時対応 9名 ・公共施設を建てる 9名
- ・公共の物（街灯・信号機・公園・横断歩道・トイレなど） 9名 ・教科書 7名
- ・コロナワクチン 3名 ・消防・救急 3名 ・医療費 2名 ・介護費 2名
- ・公務員の給料 2名 ・国債の返済 1名 ・老後の生活 1名 ・鉄道整備 1名
- ・工事 1名 ・国民に必要な物に 1名 ・国民の安全や役立つこと 1名

3 税金は、なぜ必要なのでしょう。

- ・教育費・教科書無償配布のため 8名 ・道路整備をするため 7名
- ・世の中がより豊かで平和であるため 5名 ・公共施設を建てるため 4名
- ・国民の生活に支障が出ないようにするため 3名 ・教育や福祉を充実させるため 3名
- ・救急車・警察・消防が有料になる 3名 ・災害時対応 2名
- ・みんなが安全に生活するため 2名 ・コロナ対策 1名 ・医療費が高くなる 1名
- ・公務員を雇うため 1名

《 事前調査との比較 》

【設問1について】

税金の集め方を具体的に書く児童が多かった。税金を募金で集めると回答していた児童も、

消費税など国民から徴収されているという回答に変わった。車を持っている人や持っている土地から税金をもらうとの回答も、具体的に自動車税や固定資産税などの名称で答える児童が多くなった。

【設問2について】

事前調査でも税金の使われ方について学習した知識について書かれていたが、事後調査ではより具体的でたくさん回答できるようになっていた。特に学校のために使われているという意見が多かったが、事後調査では学校で使われている物が具体的に回答してあった。また、災害対策に使われていると回答した児童が増え、震災復興に税金が充てられているという意識を持たせることができた。

【設問3について】

事前調査でも回答できていたが、事後調査では書いている内容が増えた。箇条書きで書くよう指導していたので、項目が増えていることが分かった。

《児童感想》

税金のいろいろなことを知るまでは、「何で買った物にも、とお金がかか
がるの??」と思っていた。けれど、調べていくと、この税金というのは、自
分たちが快適に暮らせるためのものだ。たことに気付きました。
又、教室にあるものなどは「別に自分のものでもないし、大丈夫でし
ょう」ぐらいの勢いで使っていたけれど、ものすごく高いお金をかけて、私達
のためにいろいろなものを買ってくれていると思うと、今までのことが
とても、はかばかしいぐらいに思えてきます。

クラスの子の発表を聞いてみると、外国の税金など、ものすごく高
くても、その分、福祉などがとても充実していて、税金はイヤでも
必ず払わなくてはいけないものだ」と改めて思いました。

世界の税金はいろいろ調べていくと、日本とは全然ちがう。
その国だからこそできるような税金ができておもしろいです。
税金発表の内容は、難しいものだけれど、それを、短く、
分かりやすくまとめるといふ点でも勉強になったので
良かったです。

《事前調査と事後調査の比較》

1 税金は、どのように集められていますか。

・私達が買った食料や服などから集められている。

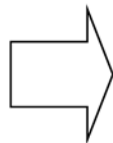
2 税金は、どんなことに使われていますか。

・道路工事
・教科書

3 税金は、なぜ必要なのでしょう。

・税金がないと国のものをなおしたりすることができないから。

【事前調査】



1 税金は、どのように集められていますか。

・お店などで払っている税金
・直接払う(消費税)
・税金(日本の税金) などで払っている。

2 税金は、どんなことに使われていますか。

・学校の机や机など
・交通整備、道路整備
・ダム
・災害時の対応
(津波、噴火、土砂災害) などに使われている。

3 税金は、なぜ必要なのでしょう。

学校などを作るため
・災害時の対応にお金がなくてはいけない
交通整備、道路整備をするため
など、国民の生活に支障がでないようにするため、税金が必要。

【事後調査】

8 研究の成果と課題

- 授業で基礎知識を身に付け、租税教室でさらに知識を増やし、最後に疑問に思ったことを追究させることで、知識をより深めることができた。
 - スライドにまとめてお互いの発表を聞くことで、自分のテーマ以外の知識についても深めることができた。タブレットで調べたり、税理士にFAXで質問に回答してもらったりしたことで、かなり専門的な知識を得た児童もいた。
 - 自主学习で調べてくる児童が見られるなど、税に関して興味を持たせることができた。
 - 宮城県民として、震災復興にも税金が充てられていると知ったことで、より税金を身近に感じさせることができた。
- △総合で6時間、租税教室(社会)で1時間確保したが、時数確保が難しかった。成果が多かったため、時数の確保をしっかりと見通せれば、有意義な学習になると感じた。

令和4年度 租税教育に関する研究発表

名取市立ゆりが丘小学校
教諭 小林 敏之



1 研究主題

税を身近なものとして捉え、知識を深めるための指導の工夫
～ICT機器の効果的な活用を通して～



2 主題設定の理由

- ・ 公民から学習開始
- ・ 将来納税者になったときに正しい知識を持つ
- ・ ICTの活用で税の知識を深める

3 研究目標

税金に関する授業や租税教室、発表会を通して、
税に関する知識を深めるための指導法を探る

4 研究の方法

- (1) 税金の基礎知識を知る
- (2) 税金に関する意識調査
- (3) 租税教室の開催
- (4) 税金に関する追究学習



5 研究計画

令和3年 4月	・税金について
11月	・事前調査
12月	・租税教室
令和4年 1月	・課題追究学習・まとめ
2月	・発表会 ・事後調査

6 指導計画

次	段階	主な学習活動	時間
1	税金について知ろう (社会)	①教科書(東京書籍)から税について学ぶ。 1. わたしたちのくらしと日本国憲法 ～くらしの中の基本的人権の尊重～ 2. 国の政治のしくみと選挙 ～選挙のしくみと税金の働き～ 3. 子育て支援の願いを実現する政治 ～税金の働き～ ②事前調査 ・調査紙を用い、児童の税に関する知識を確認する。 ③租税教室	3
2	課題について調べよう (総合)	①税の学習を通して、疑問に思ったことを調べる。 調べたことをスライドにまとめる。	5
	調べたことを伝えよう (総合)	②発表会を行い、調べた内容を伝え合う。 新たに知ったことをメモする。	1
	事後調査	③児童の税に関する知識の深まりをみる。	

7 研究の概要

【第一次 税金について知ろう】

①教科書から税について学ぶ。

1. わたしたちのくらしと日本国憲法
～くらしの中の基本的人権の尊重～
2. 国の政治のしくみと選挙
～選挙のしくみと税金の働き～
3. 子育て支援の願いを実現する政治
～税金の働き～

1. わたしたちのくらしと日本国憲法 ～くらしの中の基本的人権の尊重～



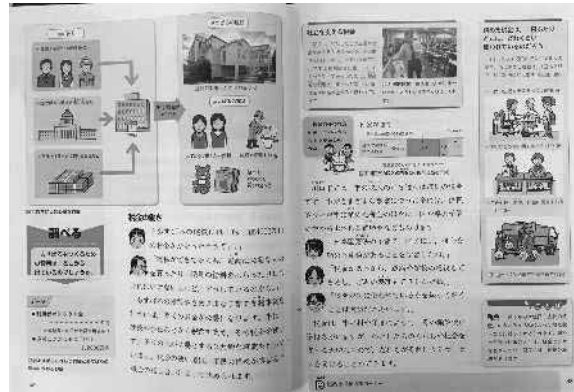
新しい社会6 政治・国際編
東京書籍

2. 国の政治のしくみと選挙 ～選挙のしくみと税金の働き～



まかなわれています。税金には、ものを買ったときにかかる消費税などがあります。国の税金の集められ方やその使われ方(予算)は、国々の代表者である国会議員によって決められます。

3. 子育て支援の願いを実現する政治 ～税金の働き～



②税に対する事前調査

対象：6年1組 男19名 女11名 計30名

日時：令和3年11月11日実施

全項目自由記述，複数回答可

1 税金は、どのように集められていますか。

・消費税	16名
・ものを買った時	7名
・給料から	4名
・募金	3名
・たばこ税	2名
・車をもっている人から	2名
・国民から	2名

(その他)

・ガソリン税	・所得税	・住民税	・もっている土地から
・会社経営者から	・選挙	・国からもらう	

2 税金は、どんなことに使われていますか。

・教科書	19名
・道路整備	8名
・学校を建てる	7名
・施設を建てる	6名
・学校の用具	6名
・公園	3名
・災害の復興	2名
・警察	2名
・病院	2名
・公務員の給料	2名
・ワクチン対策	2名
・国を支えるため	2名

(その他)

・年金
・消防
・病院の薬代
・ゴミ収集
・公衆トイレ
・募金
・義務教育費
・救急車
・誰でも受けられるサービス
・コロナ保障

3 税金は、なぜ必要なのでしょう。

・国民のため	6名
・学校や施設を建てるため	4名
・教科書を無償にするため	3名
・道路を整備するため	2名
・人がより快適な生活をするため	2名
・警察官を雇うため	2名
・町をよくするため	2名
・無回答	2名

(その他)

・祖父、祖母の生活のため	・救急車が有料になってしまうから
・公共施設の整備のため	・公共サービスのため
・国の借金返済のため	・医療費が高くなってしまったから
・災害の復興のため	・便利な物を作るため
・未来の国のため	・世界のため

③租税教室（12月13日）

【講師】

税理士 高橋賢治さん（ハルナカ税務会計事務所）

税理士 渡辺敏幸さん（税理士法人Sincere）



【税金クイズ】



【 児童の感想 】

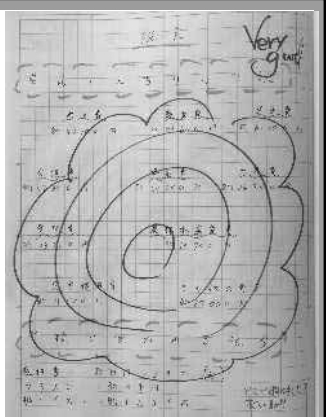
今まで税というと消費税しか思い浮かばなかったけれど、それ以外にも50種類ほどの税があることを知ることができた。税金の使い道にあった「災害対策」では、具体的にどんなことを行っているのだろう。



税金は、お金を払わなくてはけなし、「いらんないんじゃないかな」と思っていたけれど、今日税金のことを学んで「みんなが負担してみんなが使う、みんなが幸せ」という言葉を聞いて、自分一人だけ払っているわけではない、みんなのため、自分のためにもなるので大切なことだと思った。他の国の税金には、どのようなものがあるのだろう。



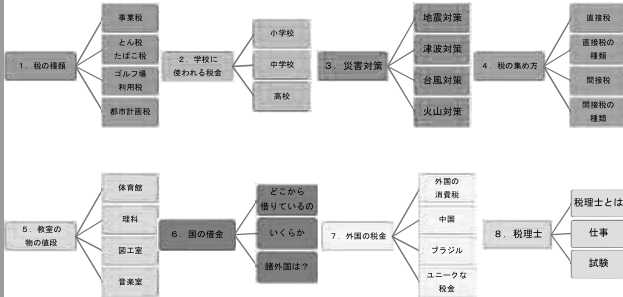
【とん税を調べた自主学习】



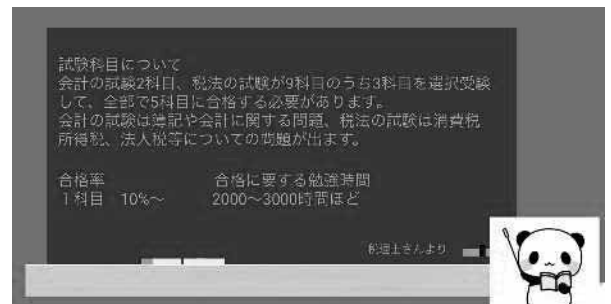
【県民一人あたりの内訳を調べた自主学习】

【第二次】

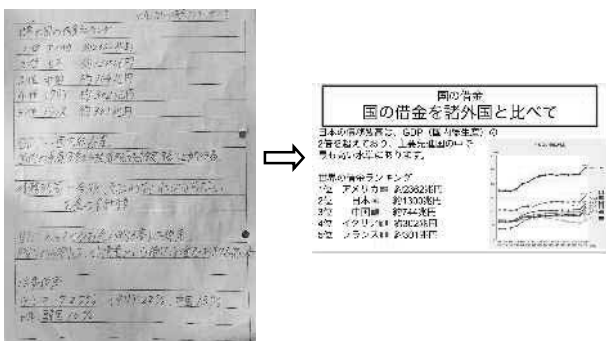
①課題について調べよう (1/18～)



税理士さんからFAXで回答をいただいた児童のスライド



調べて整理したメモをもとに作ったスライド



②調べたことを伝えよう



外国の税金をクイズで紹介する様子

③税に対する事後調査

対象：6年1組 男19名 女11名 計30名

日時：令和4年2月21日実施

全項目自由記述，複数回答可

1 税金は、どのように集められていますか。

事前

1 税金は、どのように集められていますか。

- ・消費税 16名
- ・ものを買った時 7名
- ・給料から 4名
- ・税金 3名
- ・たばこ税 2名
- ・思っている人から 2名
- ・国民から 2名

その他：
 ・たばこ税 消費税 消費税 消費税
 ・国民から 国民から 国民から 国民から

事後

1 税金は、どのように集められていますか。

- ・消費税 26名
- ・ゴルフ場利用税 7名
- ・人差税 7名
- ・たばこ税 7名
- ・国定資産税 6名
- ・所得税 4名
- ・とんぼ 4名
- ・直接・間接的に 4名

その他：
 ・他人から 他人から 他人から 他人から

2 税金は、どんなことに使われていますか。

事前

2 税金は、どんなことに使われていますか。

- ・教育費 19名
- ・道路整備 8名
- ・学校手紙で 7名
- ・建設費 6名
- ・学校の用紙 6名
- ・公園 3名
- ・災害の復興 2名
- ・学校 2名
- ・病院 2名
- ・公務員の給料 2名
- ・ワクチン開発 2名
- ・国を支えるため 2名

その他：
 ・道路 道路
 ・公園 公園
 ・学校 学校
 ・病院 病院
 ・公務員の給料 公務員の給料
 ・ワクチン開発 ワクチン開発
 ・国を支えるため 国を支えるため

事後

2 税金は、どんなことに使われていますか。

- ・学校維持 18名
- ・道路整備 14名
- ・災害時対応 9名
- ・建設費 9名
- ・公共の物 9名
- ・教科書 7名
- ・コロナワクチン 3名
- ・消防・救急 3名

その他：
 ・道路 道路
 ・公園 公園
 ・学校 学校
 ・病院 病院
 ・公務員の給料 公務員の給料
 ・ワクチン開発 ワクチン開発
 ・国を支えるため 国を支えるため

3 税金は、なぜ必要なのでしょう。

1 研究主題

児童が納税や政治に興味・関心をもち、考えを深める指導の工夫
～身近な地域（岩沼市）を題材とした学習活動の工夫～

2 主題設定の理由

「これまで政治や税金の使い方について普段から、新聞やニュースを読んだり、見たり、聞いたりしていますか？」と、授業中や休み時間中に児童に問い掛けると、返ってくる反応が薄いと感じていた。実際に小学校で政治分野の学習活動や授業を進めていると、「政治や公民は難しい言葉が並んでわからない」「選挙や納税は大人になったら、しなくてはならないものだから仕方なく行う」といった声が聞こえてきたり、感想で書かれたりすることがある。特に、納税に関しては、「国民の三大義務の一つということを学習したので、納税はしなくてはならないものだ」と思っている児童が多く、自ら進んで納めるというよりは、「支払わなければならない」と考えている児童が多いようにうかがえる。小学生という発達段階で、児童が政治や納税に対して興味や関心を高めるためには、どのような教育活動を行い、児童にどのようなことを考えさせなければならないか、明らかにしたいと考えた。

児童が普段から使用している公共施設の見学の活動や理想の公園について考える実践授業を通して、実際に暮らしている身近な地域（岩沼市）の公共施設について理解を深め、将来の納税や政治が暮らしを豊かにしていくために必要であることに気付かせたい。さらに児童一人一人が納税や政治を将来の自分の事として関心をもち、考えを深めながら自分の住む岩沼市をよりよくしようとする児童を育てたいと考え、本主題を設定した。

3 研究目標

自分の住んでいる身近な地域の政治や公共施設についての学習活動を通して、納税や政治について自分事として捉え、さらに考えを深めるための指導法を探る。

4 研究方法

- (1) 5学年において租税教室を受講することにより、税金についての基礎的な知識やその使われ方の仕組みについて理解させ、税金の必要性や重要性について考えさせる。
- (2) 6学年の社会科「子育て支援の願いを実現する政治」の学習を通して、税金の役割や自治体の政策について理解させる。さらに、自分の住む地域と結び付けて考えられるようにする。
- (3) 税金について学習したことをもとに、税金の大切さについて絵はがきにまとめ、絵や文で表現させる。

- (4) これまでの学習の内容に基づき、税金に関するアンケート調査を行い、理解状況についての実態把握をする。
- (5) 身近な地域のコミュニティセンターや岩沼市議会会議場の見学活動を行い、岩沼市での税金の使われ方や政策について、一人一人に課題をもたせ、見学の意欲を行い、また、施設で働く人へインタビューを行うことによって、身近な公共施設の必要性や重要性などについて実感させる。また、活動の振り返りをさせ、分かったことや考えたことを整理させる。
- (6) 実践授業において、理想の公園についてグループで話し合う活動を通して、岩沼市の将来の公園について考える活動に取り組みさせる。
- (7) 成果と課題を取りまとめる。

5 研究の概要

(1) 5 学年 租税教室開催【5 クラス 172 名受講】

① 実施時期 令和3年11月

② 講義内容

- ・税金とは何か 映像教材「マリンとヤマト 不思議な日曜日」の視聴
- ・もし、税金が無かったらの考察
- ・税金でできているものについて
- ・税の種類
- ・教育費と税
- ・一億円の重さ「レプリカの重さを体験」
- ・世界の税金について（渋滞税、うさぎ税、ソーダ税等）
- ・国民の三大義務と納税について
- ・宝くじと税金について
- ・税金の日本における歴史



③ 講義を受けての児童の感想 【172名の内、一部抜粋】

今日は租税教室がありました。丹野さん税金の事を教えていただきありがとうございます。東日本大震災が終わったときに税金が12兆使われた事を知っておどろきました。震災復興支援金については、すごくいいなあと思いました。

私が一番驚いたのは、税金の種類が50種もある事です。それから、昔の税金の名前を面白いなと思いました。世の中の一部分が知れてよかったです。

税金の事について分かった事はたくさんあるけどその中から3つびっくりしたことが

あります。1つ目は税金の種類が50種類もあるということです。2つ目は、日本はいっぱい借金をしていることです。3つ目は税金がなくなると大変なことです。特に税金がなくなると橋が壊れても直されないこと、教科書を自分たちで買うこと、道路を自分のものにすること、いろいろ自分たちの生活が大変になることが分かりました。税金のことを学べて良かったです。

アニメで税金がない世界を見て、税金はすごく大切なのだなと思いました。税金がなくなった時に、通行料や火事を消すのもいちいちお金がかかるのもすごく大変だなと思いました。前までは消費税とか嫌だなと思っていたけどこのアニメや先生の説明を聞いてすごく大切なのだなと思いました。そして税金についても問題など、授業もすごく楽しかったのでまた詳しく教えてほしいです

私はおやつを買うときに100円のお菓子は10円ぐらいプラスされていて嫌だなと思ったけど、その税金が私たちの色々なところに使われているということを知って、税金は大切なのだなと思いました。

④ 考察

児童は、「税金」という言葉自体は聞いたり知っていたりしていたが、租税教室が開かれる前は、税金の意義や必要性について正しい理解をしておらず、どちらかといえば納税することに対して抵抗感がある児童が多かったように思う。今回の講義を受けて、税金が生活に関わっていることや、暮らしを豊かにしたり、災害などの際に復興費として使われたりするということを知って、税金に対する思いが変化したことを述べる児童が多かった。



(2) 実践授業 社会科6学年「子育て支援の願いを実現する政治」【6年4組36名】

※ 本単元は、他の4学級はそれぞれの担任が授業を実施した。

① 実施時期 令和4年5月～6月

② 実施内容 教科書〈東京書籍〉新しい社会6 34ページ～45ページ)

〈単元の指導計画〉

時	主な学習内容や活動	研究目標との関係について（授業における指導・支援のポイント）	評価について
1	<p>児童センター【あすばる】の様子と地域住民の願いについて話し合い、学習課題をつくる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>租税教室で学習したことを想起させ、地域の児童センターや児童館は市で運営している公共施設であるということを確認する。</u> ・ <u>教科書に掲載されている児童センター「あすばる」は、子育てをしている大人や、子供世代のために利用されている施設であるということを理解させ、身近な地域である岩沼市にも児童館や図書館などが同じように運営されていることを確認する。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分なりの課題をもち、予想や見通しをもつことができる。
2	<p>「あすばる」の活動の内容や、運営する上でのくふうについて理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「あすばる」が赤ちゃんから高校生まで利用できることや、年代によって活動内容を変えていることについて知らせ、施設の使いやすさや要望を参考に取り組んでいることを理解させる。 ・ <u>岩沼市の地域にある児童館なども、地域住民の願いや要望によって取組が決まっているのではないかという予想や疑問をもたせる。</u> ・ <u>岩沼西コミュニティセンターの見学について知らせ、市の公共施設がどのような工夫をしながら運営をしているか予想させる。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年代などにおける発達段階によって、取組や設備の要望が違うことに着目し、柔軟に対応できるように運営がされていることに気付くことができる。
3	<p>「公共施設」が作られる経緯や、どのように地域住民の願いが集まるのかという仕組みについて理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民住民の願いがどのように市役所に伝えられ、さらにその願いは、どのようにして実現されているのかということ、市役所や県や国の政治の働きと関係付けて理解させる。 ・ 市民の願いに沿って、市議会が公共施設を建設するかどうかを決めている 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民住民の願いが関係各所（市議会、市役所、県、国等）にどのように伝えられているのか、図や絵を利用して整理し、政

		<p>ことを理解させる。決定後、国の法律や県、市の条例に基づいて、市役所が計画を立てて建設することを理解させる。</p>	<p>治が生活を支えているという関係性について理解することができる。</p>
4	<p>市議会のはたらきと「あすばる」がどのような話合いのもと建設や運営の計画を立てているのか理解する。</p>	<p>・市議会の働きや、市議会を構成する市長や市議会議員が市民による選挙によって選出されていることを理解させ、市民が選挙によって、自分の意見を政治に反映させていることの重要性について気付かせる。</p> <p>・<u>岩沼市の市議会の見学をすることを伝え、どのような場所で、どのような話合いが行われているのかなど課題をもたせ、見学への意欲をもたせるとともに、学習したことと関係付けて課題の答えを予想させる。</u></p>	<p>・市議会の働きや議員の選出方法が、国会の働きや国会議員の選出方法と同じであることを理解することができる。</p> <p>・市の将来をよりよいものにするために判断する議員かどうか、選ぶ市民にも大きな責任があることを理解することができる。</p>
5	<p>「あすばる」をつくるための費用が税金から出されていることを理解する。</p>	<p>・税金の意義や、重要性について確認し、税金の使われ方についてどのような工夫があるのか話合わせる。</p> <p>・<u>租税教室で学んだことについて想起させ、税金は社会の会費であることや、教育、福祉、医療など様々な分野において、住民の暮らしを支えるものであることを理解し、自分の生活と関係付けて税金の使われ方について考えをもたせる。</u></p>	<p>・税金の使われ方について話し合い、自分だったらどのように使ってほしいのか自分の考えを書くことができる。</p>
6	<p>学習課題について調べて分かったことを整理し、児童センターがつくられるまでの政治の働きにつ</p>	<p>・学習したことをノートに整理させ、分かったことや気付いたことなどを書かせる。</p> <p>・<u>岩沼西コミュニティセンターや岩沼市議会会議場の見学について、教科書</u></p>	<p>・学習したことをノートに整理し、考えたことについて短い文章でまとめることができる。</p>

	<p>いて整理する。さらに、子育て支援の願いを実現する政治の仕組みについて考えをもたせる。</p>	<p><u>の学習内容を基に、個人の課題を設定し、課題に対して予想させる。</u></p>	
--	---	---	--

③ 児童の学習課題や感想

<p>【あすばるについて、主な学習課題】一部抜粋</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いつ、どこで、どのように、誰が公共施設を作ることを決めているのかを知りたい。 ・どのくらいの費用が出されているのかを知りたい。 ・何が行われているのかを知りたい。 ・市民の声がどのように届き、どのように話し合いが行われているのか。

<p>【学習の感想】一部抜粋</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「あすばる」が市民の願いを受けて、市議会で話し合いが行われ、税金によって建てられているということが分かりました。ちゃんと正しく使われてほしいです。 ・ノートに分かりやすくまとめることができました。公共施設は、国や市などたくさんの補助や支援、市民の税金によって作られているのが分かりました。岩沼市の公共施設も調べたいと思いました。 ・私たちの市の市議会でも、しっかり話し合っ決めてほしいなと思いました。

④ 考察

公共施設を建てる際には税金がどのくらいかかるのか、誰がどのように決めているのかという「税金を正しく、適切に使っているのか」「公平に市民の声が反映されているのか」と、するどい意見をもっている児童も数人見られた。昨年度の租税教室の時に比べて、政治や納税について自分の考えをもち、自分の住んでいる地域や自分の生活と結び付けて考える児童が増えてきたように感じた。

(3) 税に関する絵はがきコンクールへの出品

- ① 実施時期 令和4年9月
- ② 出品者数 6学年5クラス(165名が出品)

③ 児童の作品の例



④ 考察

税に関する絵はがきコンクールの出品されている作品を分析すると「税金が暮らしの様々なことに使われていること」「適切に払うことによって、社会全体が支えられること」「税金によって助けられる人がいること」「税金が様々な世代の幸せな暮らしに関係付けて使われていること」を表現する児童が多い。これまでの税金の学習について理解を深め、税金の適切な使い方に対する自分の思いをもち始めている児童が増えたように感じた。

(4) これまでの学習に基づいた児童の実態調査

- ① 令和4年9月1日
- ② 税や公共施設に関するアンケート調査の内容

<p>問1 税金は何に使われていますか。</p> <p>【複数名が答えたもの】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書 42名 ・道路 38名 ・学校 30名 ・公共施設 29名 ・信号 20名 ・公園 19名 ・消防 12名 ・救急（救急車含む） 11名 ・病院 10名 ・警察 10名 ・公務員の給料 8名 ・ごみの回収 8名 ・教材、教育費 8名 ・医療関係 4名 ・子供の医療費免除 4名 ・国葬 2名 ・国や市のため 2名 <p>【1名が答えたもの】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・街頭 ・遊具 ・横断歩道 ・コミュニティセンター ・みんながつかうもの ・農作業や養殖業をしている人への支援 ・生活支援 ・災害の時に使われる ・図書館 ・iタブ（岩沼市の児童用配布タブレット） ・市のサービス ・学校の電気や水道代 ・机 ・橋 ・寄付 ・消防で使う水の代金 ・防衛費 ・自衛隊 ・住宅 ・年金 ・給食 ・ユニバーサルデザイン

・よりよい町にするために使われるもの ・刑務所 ・出産費用

問2 税金を将来納めたいと思いますか。

問3 理由を教えてください。（理由は一部抜粋）

納めたい 105名

- ・納めないと暮らしが大変なことになるから。
- ・みんなのためになるお金だから払いたい。
- ・税金を支払わないと困る人が出てくるから。
- ・警察や救急車が動けなくなったら困るから。
- ・自分が困った時に助けてくれるものだから。

どちらかというとなめたい 42名

- ・学校に通えなくなるから
- ・支払わなければならないけれども、みんなのために使ってほしいから。
- ・お金がかかるけど、生活のために使われるから。

どちらかというとなめたくない 5名

- ・義務付けられているものだから払うものだと分かっているが、税金はあった方がいいと思うけど、強制でなければ払わない。
- ・自由にお金を使いたいから。
- ・無駄にお金を支払いたくないから。

納めたくない 1名

- ・なぜ税金を払わなければならないか分からないから。

問4 岩沼市の公共施設で利用したことがあるものについて選択しましょう。

市民会館や中央公民館・・・68名

岩沼西コミュニティセンター・・・45名

総合体育館や陸上競技場・・・136名

グリーンピア岩沼・・・140名

西児童センター・・・100名

ハナトピア岩沼・・・99名

岩沼市民図書館・・・133名

その他・・・15名

（地域の公園、学校、勤労センター、玉浦の公民館、他の小学校 等）

〔考察〕

税金が何に使われているかという質問に関しては、教科書や道路、学校という回答が多

かった。その理由としては、普段の生活で身近なものであることが大きいことが考えられる。また、5学年の時にいった租税教室の中で、町の道路が壊れたとして税金が無いと直すこともできないし、通ることもできなくなってしまうという話題が印象的に残ったからではないかと思われる。他にも暮らしを豊かにするために様々なことに使われたり、困った時に使われたりするということ認識をしている児童がほとんどであった。

税金を納めたいかという質問については、「納めたい、どちらかというとなめたい」と答えた児童が多く、「みんなのために使うもの」「無いと困る人がでてくる」といったように、社会のみんなで使うというイメージを強くもっている児童にとっては、「必要」と肯定的に考えていることが推測される。「納めたくない、どちらかといえば納めたくない」と答えた児童はあわせて6名いるが、「自由にお金を使いたい」「仕方なく払うもの」と答えていることから、納税をすることに対して悪いイメージがあり、自分の生活に役立っているという実感が乏しいことが原因ではないかと思われる。

岩沼市の公共施設の利用に関しては、ほとんどの施設を利用したことがあると答えており、多くの児童が身近な地域の公共施設に慣れ親しんでいることが分かる。そこで、税金を払う意義について学ぶ際に、身近な地域でよく利用している公共施設などと結び付けて考えさせることが租税学習をする上で有効ではないか考えた。

(5) ー1 公共施設の見学活動〔岩沼西コミュニティセンターの見学〕

① 実施時期 令和4年10月25日(火)実施

② 実施内容

- ・施設内見学・・・防災教室や利用可能な設備の説明
- ・質問

③ 事前学習で取りまとめた質問内容

- ・施設でできることや、どんな取り組みやイベントなどをしていますか。
- ・なぜ、できたのですか。地域の人々のどのような願いや声があったのですか。
- ・1日に来る人数が知りたいです。どのような年齢層の方々が利用しますか。
- ・計画ができてからどのくらいの年月で作られたか。
- ・どうしてこの場所にできたのですか。
- ・何人働いていますか。どんな仕事をしていますか。
- ・建設費にかかった費用はいくらですか。また、建設費や運用費はどこから出てきているのですか。
- ・施設の目標があれば教えてください。
- ・このセンターのすごいところを教えてください。
- ・働く上で、気をつけていることを教えてください。
- ・高齢者や小さい子が楽しめる工夫はありますか。
- ・タンクの中身を教えてください。
- ・なぜ、コミュニティセンターという名前にしたのか。

- ・利用者が快適に過ごすための工夫があれば教えてください。
- ・岩沼市内の他のコミュニティセンターの違いはありますか。
- ・使われている木材や、木の種類は何ですか。（宮城県産ですか）
- ・地震の時にどんなことが行われますか。

④ 児童の感想とまとめ（ロイロノートで提出したもの）

分かったこと	考えたこと	写真	
<p>土地の面積 約6000m² 建物の面積 約950m³ タンクには40tも水が入る タンクは約40m³ かまどベンチがあり調理したりできる 湿度と気温、日付や時間がわかる時計がある 図書館があり、4000冊も本がある 災害用仮設トイレがある エレベーターがある 建設費用が約6億4千700万円かかった 木造建築でいろんな木を使って作られていた 平日の方が休日よりも利用者が多い 1日平均70人ぐらいの人が利用している</p>	<p>建設費用がこんなにかかっていてびっくりしました。タンクに40tも水が入ってすごいと思いました。図書館で本を読めたり、カラオケをしたり、部屋を借りたりもしているんなことのできる施設だと思いました。仮設トイレがあって災害時でも安心してトイレを使えると思いました。高齢の方なども簡単に2階へ上がることができるエレベーターもあって工夫がたくさん詰まっていると思いました。自分も利用して見たいと思いました。岩沼西コミュニティセンターからたくさんのことを学べたので勉強などに活かしていきたいです。</p>		
			
			
			

分かったこと・知ったこと	写真	考えたこと
<ul style="list-style-type: none"> ・面積…土地6000㎡ 建物950㎡ 		<p>○防災について 今日コミュニティセンターでかまどベンチや災害用仮設トイレ、給水タンクを見て回って、防災の取り組みの素晴らしさを感じました。例えば、かまどベンチには、たくさんの工夫がありました。まず、通常はベンチになっていて、緊急時はベンチを取り外して煮炊きができるようになる。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・タンク…緊急用の飲料水(40t)が入っていて、緊急時は給水に使われる。 		<p>このように、防災の取り組み一つでもたくさんの工夫があることに気づきました。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・かまどベンチ…通常はベンチになっていて、緊急時はベンチを取り外して煮炊きができるようになる。 		<p>○施設について 僕は、今日車椅子で見学させてもらいました。最初は、車椅子だから見学するのが大変になるだろうと思っていましたが、廊下が広くて、スムーズに見学することができました。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・災害用仮設トイレ…普通のトイレと同じように下水道につながっている。 		<p>この岩沼西コミュニティセンターのように誰もが安心して利用できる施設はすごく大切だと感じました。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・木材…カラマツ、スギ、オウシュウアカマツ、ヒノキ（ムク？） 		
<ul style="list-style-type: none"> ・やっていること…部屋を貸す(100を超える団体に)、圖書の貸し出し、地域の団体の支援 		
<ul style="list-style-type: none"> ・名前…東日本大震災からコミュニティの大切さを感じ、コミュニティセンターになった。 		
<ul style="list-style-type: none"> ・誰でも使えるように…ドアが大きい、廊下や部屋が広い、点字ブロックがある、多目的トイレなどようになっていた 		

など



(5) ー2 公共施設の見学活動〔岩沼市議会会議場の見学 ※見学の予定〕

① 実施時期 令和4年11月4日(金)実施

② 実施内容

- ・施設内見学
- ・質問

③ 事前学習で取りまとめた質問内容

- ・会議の開催の頻度を教えてください。
- ・1日の会議の時間はどのくらいですか。
- ・どのくらいの人数で会議はされているのですか。
- ・一般市民は入れますか。
- ・会議場の施設としての、特徴を教えてください。
- ・会議場の広さを教えてください。傍聴席には何人入れますか。
- ・市民の声がどのように会議に反映されているのか教えてください。
- ・今後どんな公共施設の建設がありますか。
- ・どのような話題や議題が話し合われているのですか。
- ・どうして岩沼市の議員になろうと思ったのですか。どうやったら議員になれますか。
- ・会議の仕方や議決の取り方を教えてください
- ・岩沼市の税金は主にどのように使われているのですか。最近の話合いで税金からの

支出で一番高かったものの値段を教えてください。

- ・会議での決定から、実施するまでの時間はどのくらいかかりますか。
- ・岩沼市の市政で独自の取り組みがあれば教えてください。
- ・議員さんや会事場で働く人は、会議がない時は何をしているのですか。
- ・議題はどのようにして決められるのですか。

④ 見学活動についての考察

事前に児童に施設で働く人に聞きたいことについてアンケート調査を行い、施設で働く方々に見学の当日に質問ができるように計画した。

児童の質問内容を見ると、施設そのものについて、そこで行われていること、働く人について、興味や関心が高いことが分かった。特にコミュニティセンターの見学においては、防災やバリアフリーの視点など、地域に住む人々が「どんな人でも使いやすい」「緊急時にはみんなで助け合う」という視点で作られた公共施設であるということが実感を伴って分かったようだった。今回のように、公共施設の見学を行う際には、事前に疑問点などについての質問事項をまとめ、興味・関心をもたせて見学に臨むことで、見学の視点が明確になり、理科が深まることが分かった。これから行う岩沼市議会会議場の見学も児童は楽しみにしているので、実感を伴うような活動にしていきたいと考える。

(6) 実践授業 社会科6学年「理想の公園について考えよう」【6年5組33名】

- ① 実施時期 令和4年10月26日(木)
- ② 実施内容

○ 実践授業について

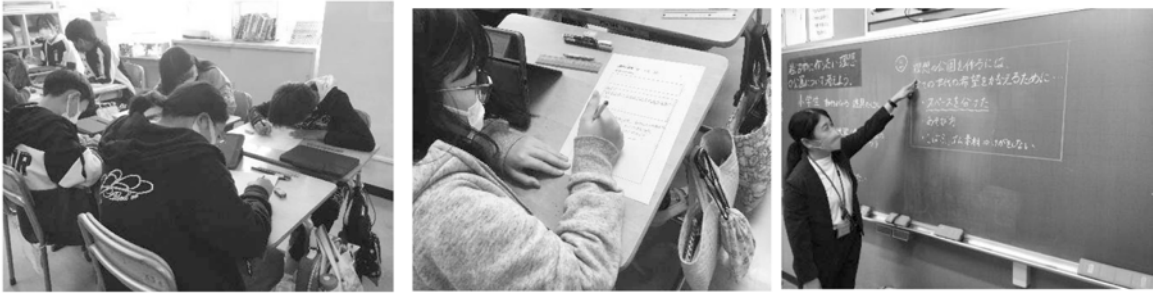
単元(題材・教材)名	子育て支援の願いを実現する政治(本時7/7)
本時の目標	地域社会に住む様々な立場の人の願いや意見を尊重しながら、自分が住む地域にどのような公園が必要かについて話し合い、主体的に考えようとする。

○ 指導過程

主 な 学 習 活 動	形 態	留 意 点 (評 価)
1 学区内の情報を整理する。 ○学区内の情報を確認しましょう。 ・様々な年齢の人が住んでいるんだな。 ・新しい家が増えているんだな。	全体	[資料] 岩沼西小学区の資料 ・人口についての資料 ◇さまざまな立場や年齢の人々が地域に住んでいることを理解させる。

<p>○岩沼市には様々な立場の方がいらっ しゃいますね。どんな人が住んでいま すか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子供・小学生、中学生、高校生・大人（一人暮らし）・家族連れ・お年寄り・外国人 <p>2 岩沼市にある様々な公共施設や公園の 写真を見せ、学習の見通しを立てる。</p> <p>○どんな人が利用していそうですか。 岩沼西コミュニティセンター。→小さい 子、小学生、平日はお年寄りが行く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グリーンピア岩沼→スポーツができる から、よく行く。大人も来るんじゃない か。 ・千年希望の丘→災害の時にたくさん の人が集まりそう。 	<p>全体</p>	<p>◇自分の住んでいる学区内の情報を可 視化することによって、自分の住んで いる街がどのような人達が暮らしてい るのか想像させる。</p> <p>〔資料〕岩沼市の公園の写真</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グリーンピア ・朝日山公園 ・たけくま3丁目公園 ・千年希望の丘 <p>◇公園や公共施設は、設備や広さによ って様々な用途があることを理解させ る。</p>
<p>3 学習課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>学区内に住む人達のために新しい公園 について話し合い、考えを深めよう。</p> </div> <p>4 地域に住む人達の願いを想像し新 しい公園について考え、話し合う。</p> <p>○それぞれの立場の人達は、地域の公園 についてどんな願いを持っているか 想像してみましょう。【予想される反 応の例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学生→遊具がたくさんあってほ しい ・中学生→広いスペースが欲しい ・お年寄り→いすで休みたい <p>◎考えを基に、理想の公園について話 し合いましょう。</p>	<p>全体</p> <p>個人</p>	<p>【視点①】身近な地域を題材とした課 題を持たせ、よりよい社会の在り方を 自分事として捉えさせ、考えたり、話 し合ったりする場面を設定する。</p> <p>◇身近な地域に新しく公園を作るとい う課題を持たせることにより、自分達 も地域社会を作っていく一員に将来な っていくことについて意識をもたせた い。また、地域に住む様々な立場の人 それぞれの願いを想像することによ り、それぞれが地域社会に対してどん な願いや思いをもって生活しているの か、考えさせるようにしたい。</p>

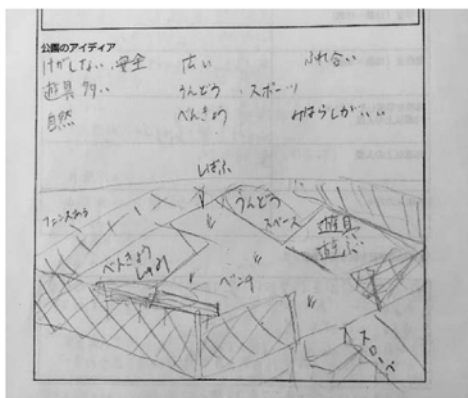
<p>◇公園の企画書（ワークシート）にグループで話し合わせながら記入させる。</p> <p>【例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「緑ゆたかないやしの公園」→どの年代の人も自然の中で自由に遊べる ・「体力筋力アップの公園」→筋力トレーニングができる遊具などの設置 ・「防犯、防災が学べる公園」→広い広場や防災について詳しく知ることができる看板等 <p>5 考えを交流し合う。</p> <p>○自分たちのグループには無かった考えやアイデアなどについて知りましょう。</p> <p>○他の班の発表を聞いて、気づいたことや分かったこと、考えたことを書きましよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・○○の視点が足りなかったなあ。 ・似ているテーマでも、設置するものが違ったなあ。 ・アイデアが いいグループがあったので、なるほどと思った。 	<p>グループ</p> <p>グループ ↓ 全体</p>	<p>【視点②】 ワークシートを利用して、考えを整理させることにより、イメージを持たせやすくする。個に合わせて声を掛けて指導する。</p> <p>◇公園に対して、それぞれの立場から何を求めるのか、記入させる。共通していそうな願いについても考える。</p> <p>◇グループごとに公園の概要について話し合わせることにより、いろいろな立場の住人の願いや意見をより多く想像させ、アイデアを考えられるようにグループごとに支援する。</p> <p>【評価方法】 ・公園の企画書（ワークシート）【思】</p> <p>・グループワーク【学】</p> <p>身近な地域が抱えている課題とそれに対する解決策について自分達の生活場面に当てはめて話し合い、考えを深めることができる。</p>
<p>6 本時の学習を振り返る。</p> <p>○話し合ってみて、どんな思いや考えを持つことができましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の地域にこんな公園が実際にあったら楽しく生活できそうだなと思いました。 ・どの立場の人も納得できるような公園を作るのは難しさがあり、実際の公園はそれぞれの願いが平等になるように作られているのではないか。 	<p>個人</p>	<p>【評価方法】</p> <p>・ワークシート【態】</p> <p>話し合いの活動振り返りを通して、様々な立場の人の考えや願いを想像し、将来的な地域づくりへの意欲や態度を養うことができる。</p>



③ 児童の書いたワークシートと感想
〔ワークシート〕

公園のアイデア
 色々な世代・利用しやすい・動物ともふれあえる
 広い・遊具がたくさん・中・くりできる・安全
 静かな場所 色々な人とふれあえる
 を分けて
 自分のやりたい事が気軽に出来る 行きやすい
 施設がいろいろある 便利
 (スポーツや勉強) 遊び場
 ができる

公園のアイデア
 ○床→ゴムのよう(陸上競技)
 ○遊具→QRコードの読みこみで、遊び方
 ドラゴン(小さい)
 サイクリングセンター
 すべり台(教員)エレベーターで登る
 アスレー 初級中級上級
 プランコ 背もたれ付き
 ふんすい バリアフリー
 グール



〔感想〕

今日は、全ての世代の希望を叶えることはそれぞれの意見を聞くと違う意見が出て、難しかったけれど、時間を掛けてみんなで考えると、できるだけ叶えられる方法を見付けることができました。

自分だけで考えるのとは発想が違って、色々な世代に何かできることを踏まえて考えることができよかったですと思いました。

今日、理想の公園について考えてみて、たくさんの世代の考え方が違うためにそれぞれの考えを想像してまとめるのが難しいと感じました。実現するには難しくても、理想の公園がいつかかなえたいなあと思います。

理想の公園を作るには、自分だけの意見を言ったら理想の公園じゃなくなるので、全ての世代の人の気持ちを考える必要があると思います。

友達と公園について話し合うと、建設費や面積などたくさんのことが必要なことが分かりました。計画をしているの市役所の人たちは大変だなと思いました。

友達と話し合ってみて、みんな目的が違って、テーマを決める時に何を大事にしたらいいのか考えるのが難しかったです。

イメージして公園をかくと、広さがとても広がってしまってお金もとてもかかると思いました。

〔実践授業の考察〕

これまでの租税教室や社会科の授業、税に関する絵はがきコンクールへの出品などの活動があったことにより、児童は「どの世代の人も楽しめるような公園」という視点をもって、それぞれの理想の公園について話し合う様子が見られた。中には、コミュニティセンターの見学のことを思い出して、「市の議員さんが10回も話し合ってやっとコミュニティセンターの計画が決まったのだから、公園を一つ作るのにも時間やたくさんの人の話し合いが必要だ」「この理想の公園の条件を全て叶えたとしたら、莫大な税金がかかってしまいそうだ」と、話し合う児童もいた。より一層、自分のこととして、政治や税金のことについて考える姿が見られるようになった。

7 研究の成果と課題

(1) 成果

5 学年の租税教室が、税金についての知識を得る初めの機会として大変効果的であった。専門的な立場の方から話を聞き、難しい用語を分かりやすく教えていただいたことで興味・関心をもたせることができ、租税教育を行う上では大変有効的な活動であった。「税金がなくなったらどうになってしまうのか？」という教室でお話していただいた視点が、税金と生活との関わりが深いことについて理解を助けたと考える。

6 学年に上がり、社会科の公民の授業において、教科書に書かれている児童センター「あすばる」について学習したことは、「自分の住む岩沼市だったら」という視点をもつことができ、非常に有効であったと考える。後に、自分たちが住む岩沼市のコミュニティセンターへの見学活動の際には、既習内容を基に質問を考える様子が見られたり、岩沼市の理想の公園を考える実践授業では、コミュニティセンターの見学の際に「みんなが使える」という視点をもつことができたりと、今回計画した一連の学習活動によって、児童は市の政策と税金とのかかわりを強く結び付けて考えるようになった。そして、本研究で目標にした、「政治や税金の話を自分のこととして考える」という求める児童の姿を達成できたように思う。

(2) 課題

租税に関する授業は、小学校段階では、6 学年の社会科の分野で行う。今回、租税教室を5 学年の11 月に行ったため、少し期間があいてしまい、税金に関する知識を授業の中でもう一度確認する必要があった。子供の学習への意欲をより持続させるためには、租税教室を含めた校内の行事と単元学習の時期を調整し、実施していく必要がある。

また、今回コミュニティセンターと岩沼市議会会議場の校外学習を10 月、11 月と設定してしまったため、事後のアンケートがとれず、児童の考えの変容を十分報告することが叶わなかった。研究自体の方法と計画の見通しを再考し、より効果的な租税教育の指導方法の追究を続けたい。

令和4年度 租税教育に関する研究発表要項

巨理町立巨理中学校

教諭 児玉彩夏

1 研究主題

「租税の意義や現状を正しく理解し、
納税者として税制の在り方や関わり方を主体的に考えることができる生徒の育成」
～ 国税庁や財務省の資料を活用し、自ら考える学習を通して ～

2 主題設定の理由

学習指導要領における租税の意義と役割の扱いとして、「統計資料などを有効に活用しながら租税の大まかな仕組みやその特徴にも触れ、国民生活に大きな影響力をもつ財政を支える租税の意義や税制度の基礎を理解できるようにする」とある。そこで、主題と副題の前半部分を設定した。また、日本国憲法では国民の義務の一つとして、納税の義務が掲げられている。義務だから納税するということはもちろん大事なのだが、税が国民生活にどのように使われているかを知り、少子高齢化や人口減少が進み、様々な災害やコロナ禍に直面している現在、これから税をどのように使っていくかを国民一人ひとりが考えたうえで、主体的に税制に関わっていく必要があると考える。そこで、主題と副題の後半部分を設定した。あと3年で3年生は選挙権をもつことになる。授業として扱う時間はわずかではあるが、これを機に税制に関心をもち、主体的に関わろうとする態度を身に付けてほしいと思い、本主題を設定した。

3 研究目標

租税の意義や現状を正しく理解し、納税者として税制の在り方を主体的に考え、関わりようとする態度を育てる指導について探る。

4 研究仮説

国税庁や財務省の資料を活用することで、租税の意義や現状を効率的に理解できるだろう。それによって、税制の在り方や関わり方について考える時間や、考えを共有する時間を多くとることができ、主体的に関わりようとする態度を育てることができると考える。

5 研究方法

- (1) アンケート調査により、生徒の税に関する実態を把握する。
- (2) 実践授業〈1〉 税について知ろう（税の種類、税収、何に使われているか）
実践授業〈2〉 税の現状について知ろう&考えよう①
（国の歳入、国の借金、借金の理由、増税について）
実践授業〈3〉 税の現状について知ろう&考えよう②（低福祉低負担、未納）
税のこれからについて考えよう
- (3) 事後調査を行い、生徒の変容を把握する。

6 研究の概要

- (1) 税に関するアンケート調査（中学3年 全4クラス 130名）

- ① 知っている税金の名前を書いてください。
- ② 納めた税金は何に使われていると思いますか。（回答省略）
- ③ 税金を納めたいと思いますか。
納めたい（77.4%） 納めたくない（22.6%）
〈納めたくない理由〉
 - ・買い物のときに面倒だから。 ・自分が稼いだお金がなくなるから。
 - ・国民のために使われていると感じないから。
 - ・何に使われているか分からないから。
 - ・税金という制度はいいと思うが、今の税金の使い道がよくない。
 - ・納得できないことにも税金が使われているから。
 - ・増税に対して給料は変わらず、生活がだんだん苦しくなると思うから。

〈実態調査の考察〉

税金を納めたいと思っている生徒が多く、そのような生徒は税金が医療や年金などの社会保障や、道路や公園など社会資本に使われていることを知っていた。学校や消防など、身近なところに使われていることも知っていた。一方で、税金を納めたくないと思っている生徒の理由は上記の通りである。国民のために使われていると感じない、何に使われているか分からないという理由に関しては、税金が何に使われているのかを丁寧に理解させることが必要である。また、税金の使い道がよくない、納得できないことにも税金が使われているという理由に関しては、だからこそ国民一人ひとりが税制の在り方について主体的に考え、関わっていくことが重要であることを理解させることが必要である。これらのことを意識して、実践授業に取り組んでいきたい。

(2) 実践授業 (全3時間扱い) … 指導案, ワークシートは別紙

(3) 事後アンケート調査 (中学3年 全4クラス 130名)

- ① 税の現状をふまえて, これからの税制 (税金を集めて政策に使うこと) をどうしていったらいいと思いますか。
- ・現状維持ではダメだと思う。今のままでは, 少子高齢化も進むばかりだし, 借金も膨れあがる一方だと思う。だから革新的な政策を出すか, 今から徐々に税制を改善するなど, 今すぐ取り組まなければならないと思う。
 - ・スウェーデンのように若者や学生への手当が多いと, 一人ひとりのチャンスが広がり, 個性を發揮できるようになると思う。そうしていろいろな機会に触れると, 様々な視点から人を見ることができるようになり, 差別なども減ると思う。
 - ・スウェーデンのように国民の負担を大きくし納められない人の分もフォローしてあげて, 納められない人が納められるようになるまで支えてあげる。
 - ・国民全員が税金を納めても予算額に届かない気がするので, 政策をよく見直して適切な税金の使い方をしてほしい。
 - ・必要な人に政策が届くようにしてほしい。
 - ・税金によって様々な政策が行われ, 生活しやすくなっていると思った。
税金を使ってよりよい国にしてほしいと思った。
 - ・もっと教育や研究にお金をかけて, 子どもが夢をもてるような政策をしてほしい。
 - ・税の現状について, 国民に分かりやすく説明して理解を得たほうがいい。
 - ・必要性の高い政策から行っていったほうがいい。
 - ・義務教育が無料であることや医療費の一部を国が出していることは, 国民の安心につながるから続けてほしい。
 - ・国民の生活が良くなるように, 国が良い方向に進めるように, より良い政策を考えて, 正常な税収の分配を継続してほしい。
 - ・他の国の税制で参考にできることがあれば, 積極的に取り入れてほしい。
 - ・国民全体に利益を与えられるような政策をしてほしい。
 - ・税は国民が生活しやすくなるためのものだと思うから, 税負担が少し大きくなってもいいと思う。
 - ・労働者の給料や定年退職の年齢を上げたりするなど, 工夫をすれば税収の増加につながるのではないかと思う。
 - ・未納者は貧しい家庭がほとんどだと思うので, 所得税を増やし, また, スウェーデンのように高福祉高負担の考え方を取り入れ, 国民の更なる平等を目指していくべきだと思う。

② これからの税制にどう関わっていきたいですか。

- ・ニュースなどを見て政治に関心をもち、選挙権が得られる年齢になったら、税制について考え、投票するなどして関わっていきたい。
- ・税金をしっかりと納めて、何かあったときは助けてもらいたい。
- ・税金によってつくられた物などを大切に使いたい。
- ・税の現状を理解したので、文句ばかりでなく、政策の理由を考え関わりたい。
- ・みんなで支え合っているから感謝する。
- ・税をきちんと納め、選挙では良いと思った政策に自信をもって投票したい。
- ・税金をきちんと納め、政策のことを学びたい。
- ・国の政治を知らなければ、税制の仕組みを理解することはできない。
国の政治や政策について理解を深め、税についてよく学んでいきたい。
- ・しっかり働いて関わっていきたい。
- ・自分自身も様々な社会保障を受けていると知ったので、きちんと税を納める。
- ・税を納めることは、自分のためにも他の人のためにもなるので、しっかりと納めていきたい。
- ・税はこれからの日本をつくる大切なものだから、しっかりと納めていきたい。
- ・家族の中で税について話してみたい。
- ・より国民のことを考えている政策を掲げている人に投票したい。
- ・税の仕組みが変わっても、それについていけるように情報を集めていきたい。

〈事後アンケートの考察〉

実態調査の段階で税金を納めたいと思っている生徒が多かったので、事後アンケートでは税金を納めたいと思いますかという項目は設定しなかった。そのかわり、3時間の学習内容の振り返りをしつつ自分の考えも書けるように、上記のようなアンケートにした。記入する時間を長めにとり、これまでのワークシートを見直しながら記入してもよいと伝えると、一人ひとり熱心に取り組む様子が見られた。ほとんどの生徒がしっかりと税金を納めたいと考えており、上記の内容からも学習の成果が感じられた。

以上のことにより、租税教育は生徒が租税の意義や現状を理解し、納税者として税制の在り方を主体的に考え、関わろうとする態度を身に付けることについて大変効果的であると思われる。

7 研究の成果と課題

(1) 成果

○研究方法について

- ・実態調査により、実践授業の際に意識すべきことを把握することができた。
- ・受験との兼ね合いから授業時数を3時間と設定し、短い時間で効率的に学習するために最低限おさえるべき学習内容を精選することができた。
- ・事後アンケートの項目を吟味したことで、学習内容を振り返りつつ、納税者としての生徒自身の考えもしっかりとまとめさせることができた。
- ・ワークシートにこまめに生徒自身の考えを書かせておくことで、それらを参考に事後アンケートを記入させることができた。

○実践授業から

- ・国税庁と財務省の資料を活用すると決め、資料の精選を簡潔に行うことができた。
- ・税の種類の数や税金など簡単に予想できるものに関しては、テンポよく全員を指名することで、クイズ感覚で生徒の興味を引くことができた。
- ・税の一覧や増税に関するプリントなどを予想後に配付することで、生徒の興味を引くことができた。
- ・ロイロノートを活用したことで、生徒の予想を素早くピックアップでき、スムーズに次の展開へつなげることができた。

(2) 課題

- ・教科書通りに進むと租税に関する授業は11月の半ばに行うものなので、政治の学習も終わっていない中の授業は、前後のつながり等も含めてやりづらかった。
- ・上記により、重要語句の説明をその都度しなければならなかったが、書いてまとめるまでの時間はなかったので、再度重要語句の確認として軽く扱わなければならない。
- ・国税庁や財務省の資料を、授業で使いやすいように加工するのに時間がかかった。

実践授業〈1〉 税について知ろう

	学習内容 主な発問（・） 生徒の反応（○）	指導上の留意点
導入 10分	1 前時の学習を振り返る。(国民の義務) 2 アンケートを行う。	・復習プリントを配付する。 ・アンケートを配付する。 ・ワークシートを配付する。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; width: 100%;">税について知ろう</div>	
展開 40分	3 税の種類を知る。 ・税の種類は何種類でしょうか。 → 予想を発表させた後、税の一覧で確認する。 ○思ったより多いという生徒が多かった。 → 消費税や所得税など、私たちの生活に特に関係の深い税について説明し、まとめる。	・全員を指名する。 ・税の一覧を配付する。 ・全員を指名する。
	4 令和4年度の税収を知る。 ・令和4年度の税収はいくらでしょうか。 ○億単位で答える生徒が多かった。 → 予想を発表させた後、確認する。 → 所得税、法人税、消費税などで、税収の8割以上を占めていることについて説明する。 5 税金が何に使われているかを知る。 ・税金は何に使われているでしょうか。 → 各項目の説明をした後、予想させる。 → 確認後、社会保障や民生費の割合が大きいことや地方交付税交付金について説明する。 ○国の確認後に互理町の予想をさせた際に、民生費をAと予想する生徒が多かった。	

実践授業〈2〉 税の現状について知ろう&考えよう①

	学習内容 主な発問（・） 生徒の反応（○）	指導上の留意点
導入 5分	1 前時の学習を振り返る。（前時のワークシート） → 国債費、公債費について説明する。	・ワークシートを配付する。
税の現状について知ろう&考えよう①		
展開 45分	2 令和4年度の国の歳入を知る。 → 円グラフの公債金を囲ませる。 → 国がどのように借金をしているのか説明する。 3 国の借金について知る。 ・日本の借金の総額はいくらでしょうか。 ○前時と違って、兆単位で答える生徒が増えた。 → 予想を発表させた後、確認する。 → 国民一人あたりの額についても説明する。 4 借金の理由を考える。 ・政策に対してお金が足りないのはなぜでしょうか。 → 予想を記入後、ロイロノートで提出させる。 → 提出させたものを全員で共有する。 → 「税が少ない」「政策が多い」「未納者がいる」をピックアップする。 ○どのクラスでも上記の項目が全て出てきた。 5 「税が少ない」⇒ 増税の方法について考える。 → みんな平等に増税する方法と高所得者に増税する方法について説明する。 ・消費税、所得税ともに増税しても足りない。 さらに増やすためにどうしたらいいでしょうか。 → 予想を記入後、班でプリントを回させる。 → 挙手させて、全体で共有する。 ○どのクラスも、消費税増税、所得税増税が半分ずつ程度だった。	・印象づけさせる。 ・全員を指名する。 ・どれだけの額か実感させる。 ・これまでの発問と比べて難易度が高いので、周りとは相談するように、積極的に声掛けする。 ・なるべく多くの生徒の予想を取り上げる。 ・増税に関するプリントを配付する。 ・税率まで考えさせる。

実践授業〈3〉 税の現状について知ろう&考えよう② / 税のこれからについて考えよう

	学習内容 主な発問（・） 生徒の反応（○）	指導上の留意点
導入 5分	1 前時の学習を振り返る。(前時のワークシート)	・ワークシートを配付する。
	税の現状について知ろう&考えよう②	
展開 35分	<p>2 「政策が多い」</p> <p>⇒ 低福祉低負担, 高福祉高負担について考える。</p> <p>→ アメリカとスウェーデンの政策を説明する。</p> <p>・これからの日本の政策の在り方について, 最も良いと思うものを選びましょう。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>A スウェーデンのように, 現在よりも政策を充実させ, そのために国民の負担も大きくすべき。</p> <p>B 現在の政策を維持して, そのために国民の負担が大きくなるのはやむをえない。</p> <p>C 現在の国民の負担を維持して, そのために政策を減らすのはやむをえない。</p> <p>D アメリカのように, 現在よりも国民の負担を少なくし, そのために政策も大きく減らすべき。</p> </div> <p>→ 予想を記入後, 班でプリントを回させる。</p> <p>→ 挙手させて, 全体で共有する。</p> <p>○どのクラスも, A~Cは同じくらいで, Dは数人いるくらいだった。</p> <p>3 「未納者がいる」⇒ 令和3年度の未納額を知る。</p> <p>・令和3年度の未納額はいくらでしょうか。</p> <p>→ 予想を発表させた後, 確認する。</p>	・全員にあてる。
終末 10分	税のこれからについて考えよう	
	4 アンケートを行う。(時間を長くとり, これまでのプリントを振り返りながら記入させる)	
	<p>① 税の現状をふまえて, これからの税制をどのようにしたらいいと思いますか。</p> <p>② これからの税制にどのように関わっていきたいですか。</p>	

税について知ろう

あとから配付

Q1 税の種類は何種類？

予想 … () 種類
 正解 … () 種類

法人税	不動産取得税	宅地開発税	電源開発促進税	鉾区税	
地方法人税	固定資産税	国民健康保険税	国際観光旅客税	狩猟税	
特別法人事業税	特別土地保有税	法定外目的税	とん税	鉾産税	()
復興特別所得税	法定外普通税	たばこ特別税	特別とん税	入湯税	()
相続税・贈与税	事業所税	地方揮発油税	地方消費税	()	()
登録免許税	都市計画税	石油ガス税	地方たばこ税	()	()
印紙税	水利地益税	航空機燃料税	ゴルフ場利用税	()	()
事業税	共同施設税	石油石炭税	軽油引取税	()	()

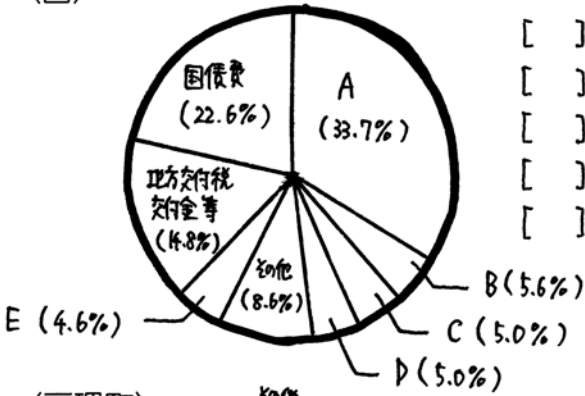
Q2 令和4年度の税収はいくら？

予想 … () 円
 正解 … () 円

所得税、法人税など () %
 消費税など () %

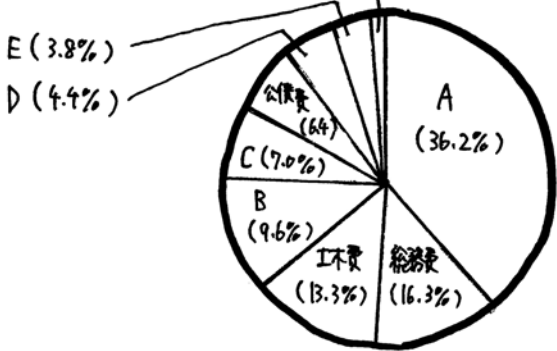
Q3 税金は何に使われている？

〈国〉



- [] 社会保障 … 医療、年金、福祉、介護、生活保護等
- [] 公共事業 … 道路、港湾、下水道、公園、堤防、ダム等
- [] 文教及び科学振興 … 小・中学校の教科書、奨学金等
- [] 防衛
- [] 新型コロナ対策予備費

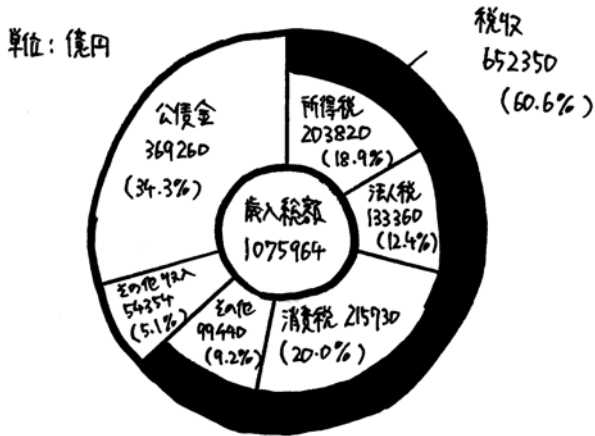
〈巨理町〉



- [] 民生費 … 福祉関係
- [] 衛生費 … 予防接種やごみの処分等
- [] 農林水産業費
- [] 消防費
- [] 教育費 … 小・中学校関係、図書館等

税の現状について知ろう&考えよう①

〈令和4年度 国の歳入〉



国の歳入とは、政府に入ってくるお金のこと。

令和4年度に行う政策に必要なお金は107兆5964億円なのだが、税では65兆2350億円しか集められないので、不足分の36兆9260億円を借金しているということ。

Q4 日本の借金はいくら？ 予想 … () 円
 正解 … () 円

Q5 政策に対してお金が足りないのはなぜ？

★ 税が少ないのでは？ → どうやって税を増やすか？

- ・ みんな平等に税を増やす … 消費税が8%から10%に(2019)
- ・ お金持ちの税を増やす … 所得税の累進課税 = 所得が高いほど税率が高くなる
 年収4000万円以上の人の税率が45%に(2015)

でも足りない… さらに増やすために…

- 【 】 消費税をさらに増税 (%)
- 【 】 所得税をさらに増税 (%)
- 【 】 その他 ()

あとから自己付

税の現状について知ろう&考えよう②

Q5 政策に対してお金が足りないのはなぜ？

★ 税が少ないのでは？ → どうやって税を増やすか？

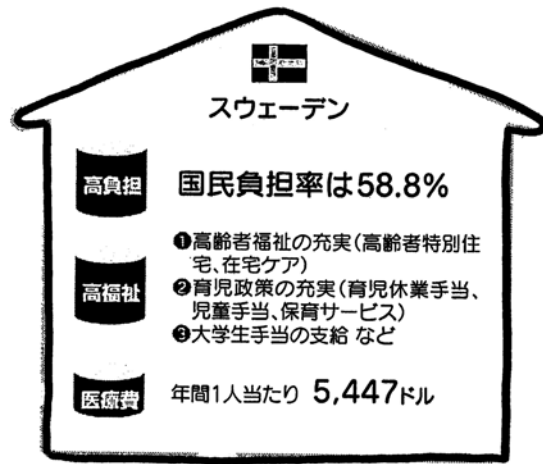
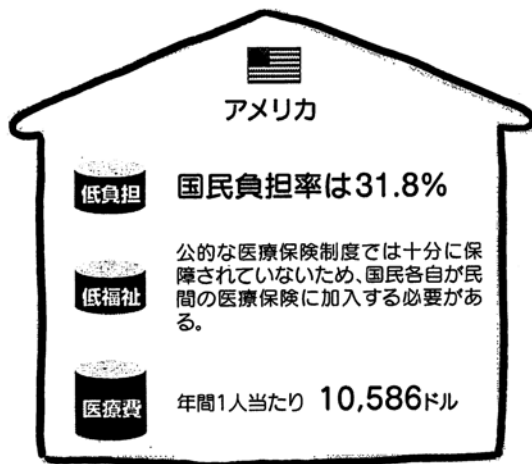
★ 政策が多すぎるのでは？ → 政策を減らす？

・ 低福祉低負担

… 政策を少なくする代わりに
国民の税も少なくする

・ 高福祉高負担

… 政策を充実させる代わりに
国民の税も多くする



ちなみに、日本の国民負担率は44.3%。

これからの日本の政策の在り方について、次のA~Dの意見から最も良いと思うものを一つ選び○をつけ、理由も書きましょう。

- A スウェーデンのように、現在よりも政策を充実させ、そのために国民の負担も大きくすべき。
- B 現在の政策を維持して、そのために国民の負担が大きくなるのはやむをえない。
- C 現在の国民の負担を維持して、そのために政策を減らすのはやむをえない。
- D アメリカのように、現在よりも国民の負担を少なくし、そのために政策も大きく減らすべき。

理由 →

★ 税を納めていない人がいるのでは？

令和3年度の未納額はいくら？

予想 … () 円

正解 … () 円

実態調査

① 知っている税の名前を書いてください。

② 納めた税金は何に使われていると思いますか。

③ 税金を納めたいと思いますか。理由も書きましょう。

(思う ・ 思わない)

理由 →

名前()

事後アンケート

税のこれからについて考えよう

Q6 税の現状をふまえて、これからの税制（税を集めて政策に使うこと）を
どうしていったらいいと思うか？

Q7 これからの税制にどう関わっていきたいか？

名前()

令和4年度 租税教育に関する研究発表要綱

山元町立山下第二小学校

教諭 高橋 丈喜

1 研究主題

税に関する関心を高め、「まちづくり」にいかそうとする児童の育成
～「未来の山元町」について調べ、意見交流する学習を通して～

2 主題設定の理由

本校では、総合的な学習の時間で行う防災教育の一環で、5年生時に「中浜小学校震災遺構」の見学、6年生時に「地域交流センター」の見学と「未来のまちづくり」についての学習を行っている。「まちづくり」を行う町政において欠かせないのが税に関する知識であるが、6年生の税に関する知識は、歴史の中で学習した「租・調・庸」や「年貢」、「地租改正」等がほとんどである。

そこで、「未来のまちづくり」を考える中で、未来の納税者を育てるために、町政と税がどのように関わっているかを友達と考えを共有することで、「税は必要なものである」という考え方をもちせられると思い、本単元を設定した。

3 研究の目標

児童一人一人が、税に関する課題を自ら設定し、調べる活動を通して、税に関する意義や役割と「まちづくり」を結びつけていくことで、未来の望ましい納税者につながるような指導の在り方を探る。

4 研究の方法

- (1) 税の学習の導入として、租税教室を行う。
- (2) 地域交流センターを見学し、山元町の被害を知ると共に「未来のまちづくり」についての構想を練る。
- (3) 山元町の課題についてインターネットや本を使って調べ、自分なりに解決する。(1回目)
- (4) 1回目の調べ学習で得た「まちづくり」の仕組みと「税」がどのように関わっているかについて考えたことをまとめる。(2回目)
- (5) 自分が調べたことを学級全体で発表し、考えを共有する。また、身近に税が使われていることを知る。
- (6) これまで学習したことをタブレットPCのアプリ「ロイロノート」でレポートにまとめる。

5 研究の計画

令和3年	6月	租税教室（講師 鈴木建設社長 鈴木様）
	10月	地域交流センター見学
	11月	授業実践（総合的な学習の時間）
	2月	実践（総合的な学習の時間） 研究のまとめ
令和4年	6月	研究発表会

6 研究の概要

(1) 学習計画（総合的な学習の時間 13時間）

次	主な学習活動	時数
1	・租税教室（講師 鈴木建設社長 鈴木様）	1
	・地域交流センター見学	2
2	・地域交流センター見学を受けての感想や自分で調べてみたいと思ったことを基に「山元町の課題」を自分で設定する。	1
	・調べ学習を行い、自分の課題を解決し、「まちづくり」と「税」がどのように関わっているかを考え、課題を設定する。【調べ学習1】	2
	・役場の職員の方からのお話や「山元町総合基本計画」を基に調べ学習を行い、税に関して分かったことをまとめる。【調べ学習2】	4
	・調べたことを発表し、考えを共有する。また、身近な税の使われ方について知る。	1
3	・これまで学習したことをレポートにまとめる。	2
	・発表会をする。	1

(2) 実践の概要

【第1次】租税教室（令和3年6月2日）

講師 鈴木建設社長 鈴木様

内容 ・VTR教材「マリンとヤマト 不思議な日曜日」
・税金と役割の大切さについて

暮らしの中での税金の使われ方について税に関しては、初めての学習であった。VTRを見たり、講師の先生の話の聞いたりして、基本的な知識を得ることができた。とても集中して学習しており、児童にとって興味がある内容だったようである。



【第2次】地域交流センター見学（令和3年10月22日）

内容 ・施設の概要説明や設備の紹介
・震災における山元町の被害説明

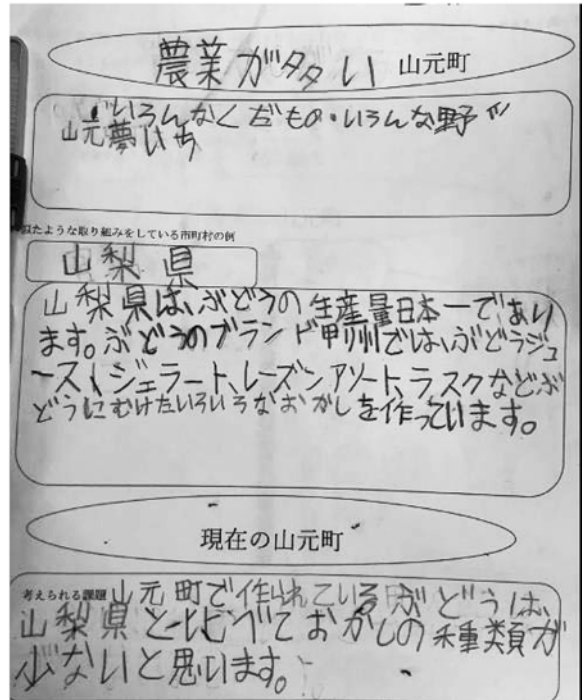
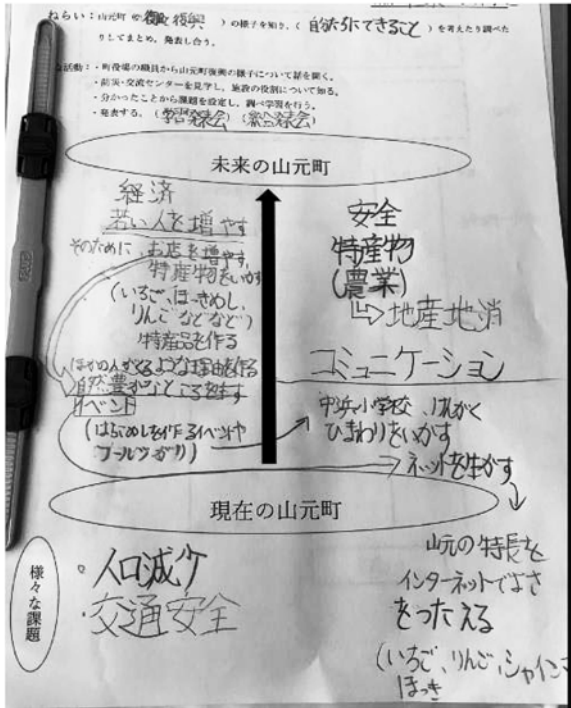
児童にとって身近な施設である「防災・交流センター」の意義を改めて知ることができた。「山元町防災拠点・山下地域交流センター」という名称からも、本施設が有事の際に避難の拠点となるために備蓄倉庫や災害用トイレ、自家発電設備など様々な防災機能を有していることが分かった。



【第3次】

①防災・交流センター見学を受けての感想や自分で調べてみたいと思ったことを基に「山元町の課題」を自分で設定した。国語科で学習した「バッグキャスティング法」を使って、理想の山元町を目指す上で必要な事柄について考えるように指導した。

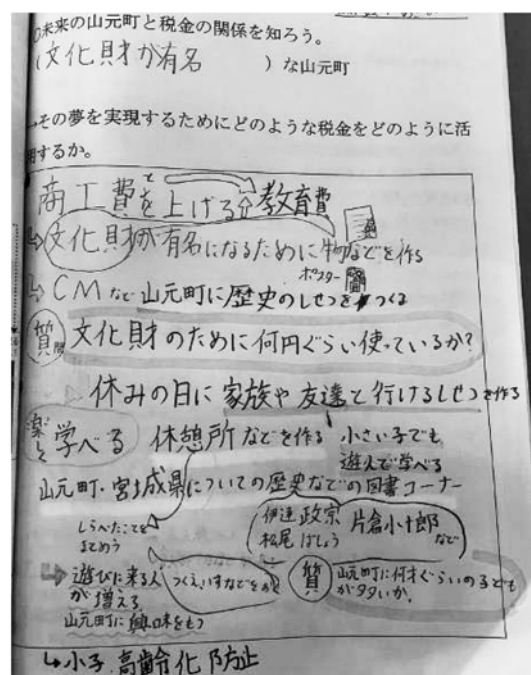
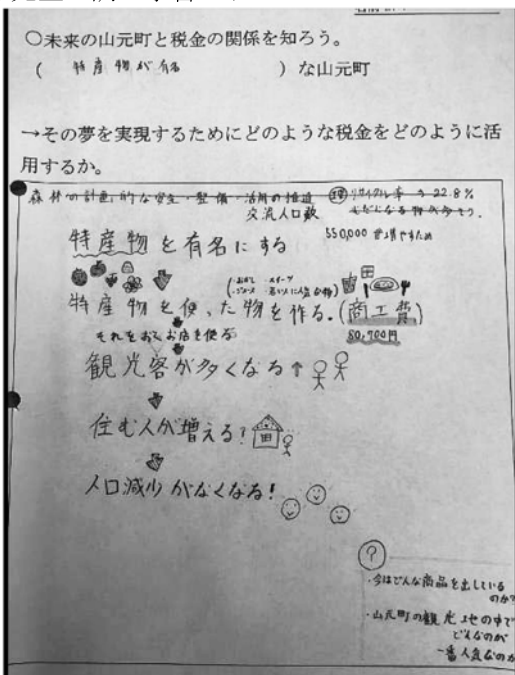
○児童の課題づくりより



②調べ学習 1

自分で立てた課題についての調べ学習を行った。「小学校社会科用学習資料 わたしたちのくらしと税金」等の資料を読んだり「富山県租税教育推進協議会」などのホームページを利用して調べたりする児童が多かった。

○児童の調べ学習より



③調べ学習 2

・山元町役場の職員の方へ送った質問状の回答と「山元町総合基本計画」を基に調べ学習を行い、「まちづくり」と「税」に関して分かったことをまとめた。【調べ学習 2】

○児童の調べ学習より

○発表の構成を考えよう。

1. タイトル: **税金と山元町の教育について**
2. 設定理由:
 - ① 山元町の平均的な学力が低い。運動能力が授業の内容がよく分かる。小.77.2% → 中.7.8%
 - ② 小.20~30%ほどになっている → 70~80%に分けてみようとした。
3. 税金と未来の山元町との関わり
 - 教育費にかけられている予算は14.7%
 - いじめや指導者の育成と団体等の活動に回している。
 - お成金の支出 教育費12.3%
 - ICTの活用
 - 町民に対するサービスの向上
 - 学習環境の整備
4. 未来への提案
 - 指導者を増やし 専門とする教科担任とクラス担任で17人2人の先生と40名以上のICTを活用し、家でのオンライン授業 (ICT的なもの)
 - 廃校となる校舎を活用し、スポーツジムなどを建設する。
 - 山元町では、生涯学習や コミュニティの形成 などが行われている。
5. まとめ (感想)

税金がどのくらい活用されているかを調べたことで未来の山元町に何か必要なことが分かった。

税費を利用して学力向上、運動能力の向上を目指すことが必要だと考えた。

○発表の構成を考えよう。

1. タイトル: **税金と山元町の特産物**
2. 設定理由:
 - ① 交通人口 350,000人で少ないが5日稼働 200,000 200倍
 - ② 交通人口を増やすために特産物で有名になる交流人口を増やす。
3. 税金と未来の山元町との関わり
 - 商工業 50,000円 特産物を作る物と作る (人気が物 持っている物)
 - ④ 商工業 防犯・農家の支援 などに使われている。(約 529万円 (2018年)) (約 1,500円)
 - 税金を少し減らして、交流人口を増やすために特産物を使った商品を出す。
4. 未来への提案
 - 特産物を使い、大物を出す (人気が物 持っている物)
 - 店を増やす。
 - ほかにも今宮城じゃない特産物を出す (おわり)。
5. まとめ (感想)

商工業は特産物とつながりだけでなく、防犯や農家水産にも使われていることが分かった。びっくりした。これから未来に向けてお店がもっと増えたい。嬉しいな。と思いました。

○発表の構成を考えよう。

1. タイトル: **税金と未来の山元町の観光**
2. 設定理由:

今の山元町はものすごい観光の場所はあまり無いので、ほかに地域の物を生かした観光の場所があれば良いと思うのでタイトルにしました。
3. 税金と未来の山元町との関わり
 - 観光対策のための費用 商工業が使われている。
 - 商工業... 海外との観光交流を拡大する。
 - 国際競争力が高いみかがある観光地づくりを支援する。
4. 未来への提案

山元町はこれから、地域の物を生かした観光の場所を増やし、観光地がより豊かになっていくと思います。
5. まとめ (感想)

山元町をより豊かにするためには、地域を生かした観光地を作ることが必要です。そのために、税金を観光地に使えば山元町がより豊かになると思っています。

○発表の構成を考えよう。

1. タイトル: **持続可能な環境な山元町**
2. 設定理由:

震災前は、自然と緑も多くあったが、震災に全ての自然がなくなり、緑もなくなり、山元町は復興して来たが、自然がなくなり、再建不能になりました。そのため、自然と緑を増やすような町づくりを、持続可能な環境にしてほしいと思います。
3. 税金と未来の山元町との関わり
 - 環境税 → 定額地への植樹、再生可能エネルギーの導入、エコカーの取り入れ、気候に合わせた暖房・冷房
4. 未来への提案
 - エコカーの取り入れ → 車の値段の30%を補助金を出す。
 - 太陽光パネルの取り入れの推進
 - リサイクルの推進 (例) スーパーへ入らなくなったゴミを入るゴミリサイクルの機械を設置。
5. まとめ (感想)

宮城県はSDGs未来都市へ選定されてから、環境面での町づくりが進んでいる。だから環境に対する町づくりを加速させるためにエコカーや再生可能エネルギーの導入を行い、震災前より環境が豊かになる山元町にしたいと思ふ。

④情報の共有

・各自が調べたことを全体で発表することで、考えを共有する場面を設けた。自分が調べたことだけでなく、友達の調べたことを知ることで、さらに税に関する知識を広げ、まとめに生かせるようにした。

【第3次】

①レポートにまとめる

これまで調べたことや情報を共有したことをもとに、レポートにまとめた。今回の調べ学習でわかったこと、学習を通して税に関して思ったことや考えたことをまとめるようにした。

税金と山元町の文化財



山元町の商工業

②発表会

電子黒板に自分のレポートを表示させ、1年間のまとめとして一人一人がプレゼンテーションを行った。各自がタブレットで友達の発表に対して感想を投稿する形で発表会を行った。友達の学習の成果を見たことを含めての学習感想は次の通りである。

感想①

教育や観光のために様々な税金が使われていることが分かりました。山元町をもっと発展させるために、山元町の良いところをたくさん他の市町村に伝えていきたいです。

感想②

今までよく分からなかった税金が、自分の生活にたくさん使われていることを知っておどろきました。特に山元町ではICTの機械がたくさん使えるようになったので、教育費はとても大切なんだと思いました。

感想③

友達の発表を聞いて、自分がまだ知らなかった観光や環境対策にも税金が使われていることが分かりました。税金は私たちの生活に欠かせない物なので、大人になったらしっかり税金を納めようと思いました。

感想④

山元町が震災からここまで復興したのも、税金で様々な復興支援が行われたからだということを知りました。まだ地震や台風など様々な災害があるかもしれないので、これからも防災対策をしっかりしていきたいです。

7 研究の成果と課題

(1) 成果

- ・学習の導入で「租税教室」を行い、「まちづくり」と「税金」を関連させて学習させたことで、児童が「税金」を身近なものとして捉えることができ、調べてみたいという意欲をもつことができた。
- ・調べ学習を2回行ったり、友達の調べたことなどの情報を共有したりすることで、より税に関する内容を深めることができた。
- ・税は、国民の生活に深くかかわるものであることや必要なものなのでみんなで負担することなどの考えを身に付けることができた。

(2) 課題

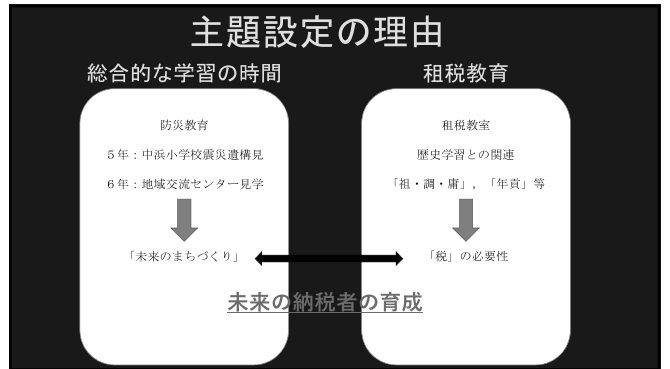
- ・今年度発表校ということで、総合的な学習の時間に10時間位置付けて学習を進めたが、租税教育の学習を充実させるために今後どのように年間指導計画に位置付けていくのか考えていく必要がある。
- ・小学生にとって、納税はまだ現実的なものではない。これから年齢が上がるにつれ納税者に近づいていくので中学、高校とどのように租税教育をつないでいくのか、どう連携を取っていくのが大切であると思った。

税に関する関心を高め、
「まちづくり」にいかそうとする児童の育成
～「未来の山元町」について調べ、意見交流する学習を通して～



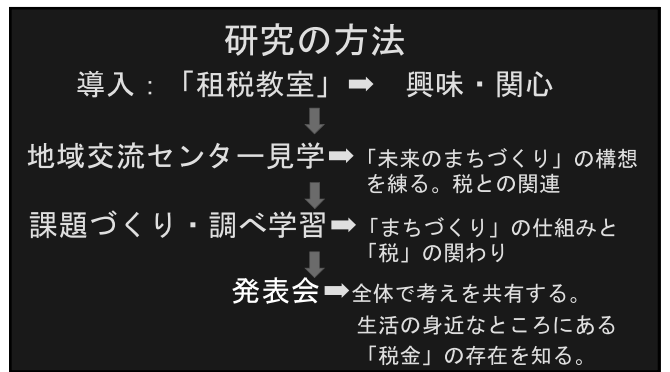
校舎
山元町立山下第二小学校

伝統 山二小輪太鼓
教諭 高橋 丈喜



研究の目標

児童一人一人が、税に関する課題を自ら設定し、調べる活動を通して、税に関する意義や役割と「まちづくり」を結びつけていくことで、未来の納税者につながるような指導の在り方を探る。



研究の方法

まとめ⇒ 「未来のまちづくり」についてタブレットの「ロイロノート」で作成

- ・調べて分かったこと
- ・自分で考えたこと
- ・友達から学んだこと
- ・将来の自分はどうしたいのか

研究の計画

令和3年

- 6月 「租税教室」
- 10月 地域交流センター見学
- 11月 授業実践
(総合的な学習の時間)
- 2月 授業実践
研究のまとめ

令和4年

- 6月 研究発表

研究の概要（１）学習計画

次	主な学習活動	時数
1	・租税教室（講師 鈴木建設社長 鈴木さん）	1
	・地域交流センター見学	2
2	・地域交流センター見学を受けての感想や自分で調べてみたいと思ったことを基に「山元町の課題」を自分で設定する。	1
	・調べ学習を行い、自分の課題を解決し、「まちづくり」と「税」がどのように関わっているかを考え、課題を設定する。【調べ学習1】	2
	・役場の職員の方からのお話や「山元町総合基本計画」を基に調べ学習を行い、税に関して分かったことをまとめる。【調べ学習2】	4
	・調べたことを発表し、考えを共有する。また、身近な税の使い方について知る。	1
3	・これまで学習したことをレポートにまとめる。	2
	・発表会をする。	1

研究の概要（２）実践の概要

【第1次】租税教室

内容 ・VTR教材「マリンとヤマト 不思議な日曜日」
・税金と役割の大切さについて

暮らしの中での税金の使われ方について税に関しては、初めての学習であった。VTRを見たり、講師の先生の話の聞いたりして、基本的な知識を得ることができた。とても集中して学習しており、児童にとって興味がある内容だったようである。



研究の概要（２）実践の概要

【第1次】地域交流センター見学

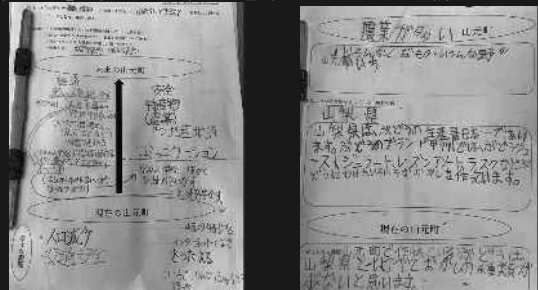
内容 ・施設の概要説明や設備の紹介
・震災における山元町の被害説明

児童にとって身近な施設である「防災・交流センター」の意義を、改めて知ることができた。「山元町防災拠点・山下地域交流センター」という名称からも、本施設が有事の際に避難の拠点となるために備蓄倉庫や災害用トイレ、自家発電設備など様々な防災機能を有していることが分かった。



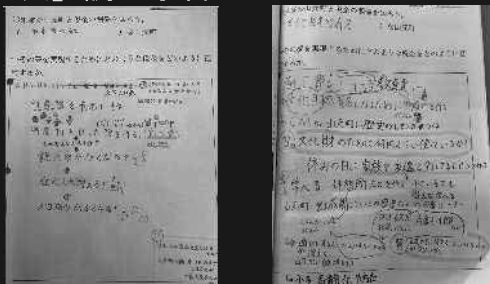
研究の概要（２）実践の概要

【第2次】第1次の実践を踏まえた児童の課題づくり



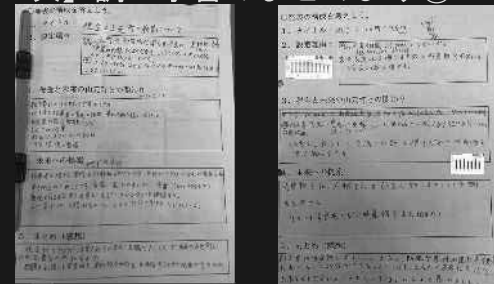
研究の概要（２）実践の概要

【第2次】調べ学習1

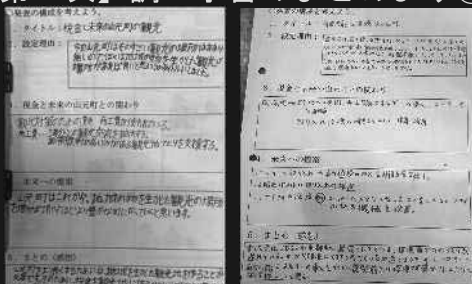


研究の概要（２）実践の概要

【第2次】調べ学習のまとめより①



研究の概要（２）実践の概要 【第２次】調べ学習のまとめより②



研究の概要（２）実践の概要 【第３次】タブレットでまとめる。



研究の概要（２）実践の概要 【第３次】発表会（児童の感想より）

感想①

教育や観光のために様々な税金が使われていることが分かりました。山元町をもっと発展させるために、山元町の良いところをたくさん他の市町村に伝えていきたいです。

感想②

今までよく分からなかった税金が、自分の生活にたくさん使われていることを知っておどろきました。特に山元町ではIoTの機械がたくさん使えるようになったので、教育費はとても大切なんだと思いました。

感想③

友達を発表を聞いて、自分がまだ知らなかった観光や環境対策にも税金が使われていることが分かりました。税金は私たちの生活に欠かせない物なので、大人になったらしっかり税金を納めようと思いました。

感想④

山元町が震災からここまで復興したのも、税金で様々な復興支援が行われたからだとことを知りました。まだ地震や台風など様々な災害があるかもしれないので、これからも防災対策をしっかりしていきたいです。

成果と課題

成果

- 児童が税の意義や必要性を理解できた。
- 興味・関心が事後の学習につながった。
- 2回の調べ学習で、内容を深めることができた。

課題

- 年間指導計画への位置づけ
- 小・中・高の連携

租税教育実践発表一覧（昭和62年度～平成3年度）

年 度	学 校 名	担 当 教 諭 名	テ ー マ 名
昭和62	名取市立増田小学校	伊 藤 清 子	国民の生活の安定と向上を図るために、国民の三大義務のひとつである納税の義務を深く認識させる
	岩沼市立岩沼南小学校	千 葉 宗 久	租税に対する関心を高めるための指導のあり方についての一考察
	亶理町立逢隈小学校	堀 川 達 也	基本的人権の尊重が民主政治の根本であり、納税の義務はこれらの権利の見返であることを理解させる
	山元町立坂元中学校	佐 藤 光 雄	租税の役割と納税の義務の意味についての理解を深めさせる
	秋保町立秋保小学校	榊 井 裕	国の事業活動を通して、税の必要性や仕組みを理解させる
昭和63	名取市立関上小学校	小 暮 出	社会科教育の中で、租税の重要性を指導し、公共心・協調心に結び付け、これらを実践できる人間性を目標とした指導の工夫
	岩沼市立岩沼西中学校	鈴 木 啓二郎	金融と財政の働きの中で、租税と国民生活の関わりについての指導から税の意識の向上を図る
	亶理町立吉田小学校	今 野 喜代子	福祉関係等身近な事例を上げて税の重要性を指導し、最後に税の作文を通じて自覚をさせる
	山元町立山下中学校	菅 野 敏 郎	税に関するもの三点を上げさせ、これについて公民教育で考察することによる租税教育の実践
平成元	名取市立増田中学校	小 野 政 稔	租税の働きやしくみを理解させ、納税の義務を自覚させる
	岩沼市立岩沼西小学校	菊 地 真勇美	私たちの生活と政治の中から、租税について理解させる
	亶理町立吉田中学校	菊 地 嘉 昭	税に関する作品の応募から、財政と国民生活について指導
	山元町立坂元小学校	佐 藤 広 実	租税の簡単なしくみから、租税への関心を高めさせる指導
平成2	名取市立増田西小学校	鎌 田 彰 郎	産業廃棄物処理に関する学習の中で、税金の働きについてふれ、税の重要性を認識させる
	岩沼市立岩沼中学校	樋 口 英 明	財政を支える財源である租税の異議や役割を、経済の実態と動向にからませながら、税の重要性を理解させる
	亶理町立高屋小学校	太 田 久仁男	税金によって作られた公共物や学校施設を大切にする態度を育てる指導の工夫
	山元町立山下中学校	江 戸 寿	税金を正しく理解させるため、視覚教材を利用しながら見せる教育の実践
平成3	名取市立名取第二中学校	清 野 ひさ子	国民生活の中で、租税の働きを正しく理解させるための指導
	岩沼市立岩沼小学校	山 田 健 一	一人ひとりを大切にする政治の指導の中で、権利と税との関わりを考えさせる指導の実践
	亶理町立亶理中学校	本 間 和 哉	税に対し、生徒が主体的な活動により、興味・関心を持たせる指導の工夫
	山元町立山下第二小学校	佐々木 恭也 小 関 尚 子	一人ひとりが健康で幸せな生活を送るために、税金は、どのように使われているかを理解させる

租税教育実践発表一覧(平成4年度～平成8年度)

年 度	学 校 名	担 当 教 諭 名	テ ー マ 名
平成 4	名取市立不二が丘小学校	丸 子 智 子	快適で豊かな生活を送るために税金はどのように集められ、また、どう使われるのか、自ら調べさせ理解させる指導
	岩沼市立岩沼北中学校	鈴 木 尚	租税の働きや仕組みを把握させ、正しい租税制度の在り方を理解させる指導
	亶理町立亶理小学校	木 村 和 正	税金が一人ひとりの生活に役立っていることを理解させる指導の工夫
	山元町立山下小学校	岩 佐 美保子 佐 藤 真 一	将来の自分や国を考えるために、税についての知識を深め、税の社会的意義を考えるとともに、興味・関心を持たせるような指導の工夫
平成 5	名取市立第二中学校	丹 野 光 洋	国民生活に大きな影響力をもつ、財政を支えている租税の意義を理解させ、また、税金は共同社会を維持するための会費であることに気付かせる指導の工夫
	岩沼市立玉浦小学校	渡 邊 清 孝	問題意識を持ち、自ら調べ解決する学習活動を通して、児童の税に対する興味・関心を高めさせる指導
	亶理町立吉田中学校	永 浦 晴 久	金融と財政の働きを租税教育の中心場面ととらえ、消費者としての私たちと関連させ、税をより身近なものとする指導の工夫
	山元町立中浜小学校	近 藤 英 人	児童一人ひとりに生活の中で、自分が税に対しどう関わっていけばよいかと考えさせる指導の工夫
平成 6	名取市立館腰小学校	高 橋 壽 子	問題意識をもって、自ら調べ解決する学習により、児童の税に対する関心を高めさせる税の意義と役割を理解させる指導の工夫
	岩沼市立岩沼西中学校	横 山 純	財政収入は租税を中心に成り立っていることを理解させ、納税の義務を負う国民のあり方について考えさせる指導
	亶理町立長瀨小学校	大 沼 仁	税金の必要性とその使われ方を理解させる指導を通して、税に対する興味・関心を高めさせる指導の工夫
	山元町立山下第一小学校	大 沼 毅	児童自ら税に対する課題意識を持たせ、調査し解決していく活動から、税の意義を理解させ、公共社会での責任と義務を培わせる指導の工夫
平成 7	名取市立愛島小学校	石 川 峰 生	子供の租税に対する関心を高めさせる指導の工夫
	岩沼市立岩沼小学校	大 沼 毅	税制度の理解を通して、公共社会での助け合いに対して、興味・関心を高めさせる指導の工夫
	亶理町立荒浜中学校	田 原 満	租税の意義と目的を理解させる指導を通して、税への関心を高める指導の一考察
	山元町立坂元小学校	菅 原 裕 子	税金の仕組みとその使われ方を理解させる指導を通して、税に対する関心・理解を高めさせる指導の工夫
平成 8	名取市立館腰小学校	芳 賀 佳 恵	課題意識を持ち自ら調べ解決する学習活動を通して、児童の税に対する関心を高めるための指導の在り方
	岩沼市立岩沼南小学校	菊 地 真勇美	税金は人々のくらしとどのように結びついているのかについて、身近な事例から気づかせ、納税の大切さを理解させる指導の工夫
	亶理町立荒浜小学校	佐々木 洋 美	計画・調査・発表を取り入れた学習活動を通して、児童の税に対する理解を深める指導の一考察
	山元町立坂元中学校	成 毛 毅	消費税と財政政策との関係をとらえて、税への関心を高める社会科公民的分野指導の一考察

租税教育実践発表一覧(平成9年度～平成13年度)

年 度	学 校 名	担 当 教 諭 名	テ ー マ 名
平成9	名取市立増田小学校	高 橋 千 佳	税に対する意識・関心を高めるための指導 ～6年『みんなの願いを実現する政治』の指導を通して～
	岩沼市立玉浦中学校	長 澤 裕 司	税への関心を高め、税を見る目を養う指導の一考察 ～税の公平性を考える討論活動を通して～
	亶理町立逢隈中学校	菊 地 幸 子	社会科学習における租税教育の在り方と指導方法の工夫
	山元町立山下中学校	佐 藤 泉	税に対する理解を深める指導の一考察 ～財政の学習を通して～
平成10	名取市立不二が丘小学校	杉 田 由 英	児童の税に対する関心を高めるための指導 ～6年『みんなの願いを実現する政治』の指導を通して～
	岩沼市立岩沼西中学校	及 川 浩 芳	社会科における租税への認識を高める指導の工夫 ～各分野において、身近な資料を活用し、税の必要性を理解させる指導を通して～
	亶理町立逢隈小学校	鈴 木 健	自分なりの課題を持ち、自分なりの方法で調査や課題解決を行い、自分なりの方法で表現していく子供の育成 ～租税に関する学習を通して～
	山元町立山下第二小学校	佐 藤 真 一	小学5年生の税に対する興味・関心を高めさせる指導計画の工夫
平成11	名取市立下増田小学校	高 橋 宏 明	児童の税に対する関心を高めるための指導の工夫 ～課題意識を持って自ら調べ表現する活動を通して～
	岩沼市立岩沼西小学校	水 沼 久美子	児童の税に対する関心を高めるための指導と学習計画の工夫
	亶理町立亶理中学校	星 和 敏	租税への関心を高めるための指導の工夫
	山元町立山下小学校	阿 部 広 力	小学校4年生の社会科学習における租税教育の効果的取り扱いについて
平成12	名取市立関上小学校	赤 沼 隆 史	児童の税に対する関心を高めさせる指導の工夫 ～自ら課題意識をもって調べる活動を通して～
	岩沼市立岩沼中学校	内 海 郁 子	児童の税に対する興味・関心を高めるための指導法の工夫 ～学び方を学ぶ学習を通して～
	亶理町立吉田小学校	渡 辺 隆	問題意識を持ち自ら学ぶ児童をめざして ～6年社会科の税金学習を通じた実践と考察～
	山元町立中浜小学校	阿 部 優 子	税に関することがらを主体的に学習させるための工夫
平成13	名取市立高館小学校	佐 藤 真理子	児童が税に対する興味・関心を持つための指導の工夫 ～住みよい「〇〇王国」作りの活動を通して～
	岩沼市立岩沼小学校	高 橋 悟	児童の税に対する興味・関心を高め、主体的に学習できるための指導の工夫
	亶理町立高屋小学校	大 槻 裕 史	児童の税に対する関心を高めるための指導の工夫 ～課題意識を持って自ら解決する活動を通して～
	山元町立山下第一小学校	佐 藤 尚 利	学校のプールが新しくなったよ！ ～税金博士を目指して～

租税教育実践発表一覧(平成14年度～平成18年度)

年 度	学 校 名	担 当 教 諭 名	テ ー マ 名
平成14	名取市立増田西小学校	鈴木 和 彦	児童の税に対する関心を高めるための指導の工夫 ～租税に関するニュース番組作りの活動を通して～
	岩沼市立玉浦中学校	大 堀 真 澄	税の関心を高め、理解を深める指導の一考察 ～租税に関する討論活動を通して～
	亶理町立亶理小学校	大 森 実	社会科との関連をはかった租税教育の試み ～税に関する興味・関心を育む単元の工夫を通して～
	山元町立坂元小学校	高 倉 成 行	児童が税に対する興味・関心を持つための指導の工夫 ～総合的な学習の時間「税金ってなんだ」の活動を通して～
平成15	名取市立ゆりが丘小学校	松 浦 和 浩	学年ごとの児童の実態に応じた効果的な租税教室のあり方
	岩沼市立玉浦小学校	柴 田 新 二	税に関する興味・関心を高め、主体的に学習に取り組む指導の工夫 ～税についての調べ学習、未来の玉浦を考える活動、道徳を通して～
	亶理町立吉田中学校	小 鴨 幸 生	租税に関する興味・関心を高める指導法の工夫
	山元町立山下第二小学校	佐 藤 孝 志	税の学習を取り入れた総合的な学習の時間の指導の一考察 ～「未来の山元町を考えよう」の活動を通して～
平成16	名取市立増田中学校	渡 邊 義 行	公民の学習における租税への関心を高める指導の工夫
	岩沼市立岩沼北中学校	瀬成田 実	税への関心を高め、思考を深める指導法の工夫 ～適切な資料展示や討論活動をとおして～
	亶理町立長瀬小学校	西 澤 勝 雄	社会科学習及び総合的な学習における租税教育の効果的な指導の一考察 ～4年社会科「住みよいくらしをささえる」、5年総合的な学習「わたしたちの亶理町を考えよう」の活動を通して～
	山元町立山下小学校	平 間 正 信	自分らしさを発信する子ども ～学んだことを発信する学習を通して(小学5年生の実践)～
平成17	名取市立関上中学校	大 宮 潤	租税への関心を高める指導法の工夫 ～3年間を見通した租税教育～
	岩沼市立岩沼西小学校	建 入 文 夫	租税について考え、正しく理解させるための指導法の工夫 ～租税に関する社会科の学習を通して～
	亶理町立荒浜中学校	佐 藤 秀 樹	公民としての資質を育てる租税学習の工夫 ～地域住民へのアンケート活動を通して～
	山元町立山下第一小学校	稲 垣 祐 子	税を通して山元町の良さを知り、発信する子どもの育成 ～総合的な学習の時間の活動を通して～
平成18	名取市立館腰小学校	相 原 直 人	税に関心を持ち税金の大切さを考えることのできる児童の育成 ～ぼくらの税金ホームページ作りを通して～
	岩沼市立岩沼西中学校	森 本 直 樹 菅 正 弘	公民としての資質の基礎を養う租税学習の工夫 ～3学年公民での継続した学習を通して～
	亶理町立荒浜小学校	塚 口 誠	進んで学習に取り組む児童の育成 ～租税に関する学習を通して～
	山元町立山下中学校	仙 石 直 樹	租税について正しく理解し、主体的に考えることができる生徒の育成 ～3年公民分野における「タックスレポート」づくりを取り入れた学習活動の工夫を通して～

租税教育実践発表一覧(平成19年度～平成25年度)

※ 平成23,24年度は震災により中止

年 度	学 校 名	担 当 教 諭 名	テ ー マ 名
平成19	名取市立那智が丘小学校	大 友 幹 雄	税に関心をもち、税の社会的意義を考えることのできる児童の育成 ～税に関する新聞作りの活動を通して～
	岩沼市立岩沼南小学校	横 山 勉	児童が興味・関心をもつための指導の工夫 ～小学校4年生からの「税に関する学習」を通して～
	亶理町立逢隈中学校	長 田 康 宏	税に対する興味・関心を高める指導法の工夫 ～身近な地域素材の活用を通して～
	山元町立中浜小学校	日 下 泰 憲 西 澤 彰 子	児童の税に対する興味・関心を高めるための指導の工夫 ～総合的な学習の時間「中浜の松ぼっくりから」の実践を通して～
平成20	名取市立第一中学校	小 鴨 幸 生	租税への関心を高める指導法の工夫 ～身近な資料や租税に関する討論活動を通して～
	岩沼市立岩沼中学校	長 澤 裕 司	租税への関心を高め、納税者としての自覚を培う指導の一考察 ～財政上の課題を考えさせる場面の工夫をとおして～
	亶理町立逢隈小学校	高 倉 成 行	税金の役割を理解させるための指導の工夫 ～小学校6学年社会科「わたしたちの願いを実現する政治」の学習を通して～
	山元町立坂元中学校	堀 内 恵 理 子	税に関心を持ち、主体的に社会とかかわろうとする姿勢の育成 ～3年公民的分野における租税学習を通して～
平成21	名取市立第二中学校	丹 野 光 洋	『納税者としての意識を高めるための指導法』 ～租税教室や様々な資料で学んだことを基にした消費税に関するディベートを通して～
	岩沼市立岩沼小学校	佐久間 秀 和	租税への関心を高める指導の一試み —小学校6学年社会科「日本の歴史」での税の学習と「租税教室」の実践を通して—
	亶理町立亶理中学校	浦 邊 盛 勝	『税に対する興味・関心を高め、発展させる指導法の工夫』～生徒自身の身近な素材の活用を通して～
	山元町立坂元小学校	清 野 政 子	児童が税に対する興味・関心をもつための指導の工夫 —総合的な学習の時間「税金ってなに」の活動を通して—
平成22	名取市立相互台小学校	大 沼 史 柄	『租税への関心を高めるための指導の工夫』 —公共施設から税金を考える—
	岩沼市立玉浦中学校	山 田 洋 子	『税の必要性についての意識を高めるための指導法の工夫』—小学校6学年社会科「わたしたちの願いを実現する政治」の学習を通して—
	亶理町立吉田小学校	渡 辺 英 明	『身近なことから税金の意義や役割を理解させる指導法の工夫』～小学校6学年社会科「わたしたちの願いを実現する政治」の学習を通して～
	山元町立山下第二小学校	針 生 武 宏	『身近な生活での税に関心をもち、税の大切さを考えることのできる児童の育成』～総合的な学習の時間「山元町の未来を考える」の学習を通して～
平成25	名取市立増田小学校	佐 藤 真 一	『税に対する興味・関心を高めさせる指導の工夫』 ～自ら調べ、主体的に税を考える学習を通して～
	岩沼市立岩沼西小学校	管 野 千 里	『税金の役割と必要性を理解できる児童を育成するための指導の工夫』～小学校6学年社会科「わたしたちの願いを実現する政治」の学習を通して～
	亶理町立高屋小学校	小 松 晃	『税金の大切さを考えることのできる児童の育成』 ～総合的な学習の時間「人権福祉」学習-だれもが幸せに生きる町づくりを通して～
	山元町立山下中学校	太 田 侑 吾	『租税への興味・関心を深化させる指導の工夫』 ～山元町の復興に関する取り組みを通して～

租税教育実践発表一覧(平成26年度～平成30年度)

年 度	学 校 名	担 当 教 諭 名	テ ー マ 名
平成26	名取市立不二が丘小学校	清 野 秀 和	「租税への関心を高めるための指導の工夫」 ～第6学年 総合的な学習の時間「税金について考えよう」の学習を通して～
	岩沼市立岩沼西中学校	阿 部 幸 子	「租税への関心を高め意義や役割を理解させる指導法の工夫」 ～租税教室や身近な資料の活用を通して～
	亶理町立亶理小学校	酒 井 久美子	「町民の願いを実現するために税金が果たす役割を理解させる指導の工夫」 ～「総合的な学習の時間」と6学年社会科「わたしたちの願いを実現する政治」の学習との関わりを通して～
	山元町立坂元中学校	渡 邊 淳 一	「将来の納税者としての意識を育む税金学習」
平成27	名取市立関上中学校	荒 川 美 貴	「積極的納税者を育むための指導の工夫」 ～税の使い道についての学習や租税教室の活用を通して～
	岩沼市立岩沼南小学校	丸 谷 由 浩	「未来の望ましい納税者を育てる指導の実践」 ～税金に対する正しい知識を身に付け、正しく納めようとする態度を養う指導を通して～
	亶理町立吉田中学校	妹 尾 文 男	「納税者意識を高める指導の工夫」 ～生徒の疑問を大切に授業づくりと税について考える機会を増やす実践から～
	山元町立坂元小学校	佐 竹 聡 子	「税金の役割を理解し、税金の必要性を感じられる児童の育成」 ～「坂元の復興と税金とのかかわり」を考える学習を通して～
平成28	名取市立下増田小学校	手 塚 英 海	「税に対する知識を深め、健全な納税者を育てる指導の実践」 ～主体的に課題を設定し、探求する学習を通して～
	岩沼市立岩沼中学校	武 田 裕 光	「地方自治の学習を通して租税の意義と役割を理解させる指導の工夫」
	亶理町立長瀨小学校	武 田 清 美	「税に対する興味・関心を高め、税の意義や役割を理解しようとする児童の育成」 ～税について児童自ら課題をもち、調べる活動を展開する学習から～
	山元町立山下第二小学校	渡 部 史 郎	「未来の納税者を育てる指導の一試み」 ～児童の「税」への興味・関心を生かした調べ学習を通して～
平成29	名取市立関上小学校	菅 原 さとみ	「第6学年社会科学学習として行う租税教育のあり方一考察」
	岩沼市立岩沼小学校	三 澤 恵	「税の意義や役割を理解し、政治参加に対する意欲を高める指導の工夫」 ～税金の使い道について考えさせる活動を通して～
	亶理町立荒浜中学校	小 鴨 幸 生	「租税への関心を高めるための指導法の工夫」 ～学び合いを取り入れた指導を通して～
	山元町立山下小学校	森 大 地	「税に対する興味・関心を高め、税への理解を深める指導の工夫」 ～主体的に課題を設定し、自ら調べる活動を通して～
平成30	名取市立第一中学校	榊 田 修	「租税教室や資料を用いた指導の工夫」
	岩沼市立玉浦中学校	川 又 大 輝	「歴史的分野における租税教育の可能性」 ～近代革命期と現在の税制度の比較を通して～
	亶理町立荒浜小学校	高 橋 洋 彰	「税への興味・関心を高め、正しい知識と納税意識をもった子どもの育成」 ～児童自らが課題をもち、調べる活動を通して～
	山元町立山下第一小学校	名 取 富 江	「児童が税に対する興味・関心をもつための指導の工夫」 ～総合的な学習の時間「税金ってなんだ」の学習を通して～

租税教育実践発表一覧(令和元年度～)

※ 令和2年度は新型コロナウイルス感染症の拡大により中止

年 度	学 校 名	担 当 教 諭 名	テ ー マ 名
令和元	名取市立高館小学校	大 槻 裕 史	「税に対する興味・関心を高め、税の意義や役割への理解を深める指導の工夫」 ～社会科の学習として行う租税教育の実践を通して～
	岩沼市立玉浦小学校	村 田 志 乃	「児童が税を身近に感じ、税に関する興味・関心を持つための工夫」 ～課題設定の工夫と学び合いの学習を通して～
	亶理町立逢隈中学校	都 澤 智 洋	「税を通して、支えられている社会を実感させるための授業実践の工夫」 ～震災前、震災直後、現在の亶理町の収入を比較させることを通して～ ～亶理町立逢隈中学校の校内研究実践を通して～
	山元町立山下中学校	風 間 啓 太	「租税を正しく理解し、主体的に考えることができる生徒の育成」 ～租税教室体験を通して～
令和3	名取市立増田西小学校	齋 藤 幸 恵	「将来積極的に社会に参画していく納税者を育む指導の工夫」 ～段階的に継続して育むカリキュラムを通して～
	岩沼市立岩沼北中学校	古 川 明 子	「租税の意義や役割を正しく理解し、納税者として社会や国の在り方などを主体的に考えることができる生徒の育成」 ～身近な地域の調べ学習を通して～
	亶理町立逢隈小学校	鈴 木 康 史	「児童が税に関する興味・関心を高めるための指導の工夫」 ～児童自らが課題を設定し、調べる活動を通して～
	山元町立坂元小学校	鈴 木 晋 也	「租税についての関心を高め、税金の必要性を実感する児童の育成」 ～税に関する身近な問いについて調べ、解決する学習を通して～
令和4	名取市立ゆりが丘小学校	小 林 敏 之	「税を身近なものとして捉え、知識を深めるための指導の工夫」 ～I C T機器の効果的な活用を通して～
	岩沼市立岩沼西小学校	先 崎 晴 香	「児童が納税や政治に興味・関心をもち、考えを深める指導の工夫」 ～身近な地域(岩沼市)を題材とした学習活動の工夫～
	亶理町立亶理中学校	児 玉 彩 夏	「租税の意義や現状を正しく理解し、納税者として税制の在り方や関わり方を主体的に考えることができる生徒の育成」 ～国税庁や財務省の資料を活用し、自ら考える学習を通して～
	山元町立山下第二小学校	高 橋 丈 喜	「税に関する関心を高め、「まちづくり」にいかそうとする児童の育成」 ～「未来の山元町」について調べ、意見交流する学習を通して～

令和4年度 仙台南地区租税教育推進協議会 役員名簿

役 職	構 成 機 関	名 等	氏 名
会 長	山 元 町 教 育 委 員 会	教 育 長	菊 池 卓 郎
副 会 長	公益社団法人仙台南法人会	会 長	佐 藤 和 也
	仙 台 南 税 務 署	副 署 長	関 谷 博 行
常 任 幹 事	仙 台 南 税 務 署	総 務 課 長	山 崎 貴 夫
幹 事	宮 城 県 仙 台 教 育 事 務 所	所 長	星 和 彦
	亘 理 町 教 育 委 員 会	教 育 総 務 課 長	太 田 貴 史
	山 元 町 教 育 委 員 会	教 育 総 務 課 長	大 和 田 紀 子
	名 取 市 校 長 会 会 長	増 田 西 小 学 校 長	鈴 木 博 幸
	岩 沼 市 校 長 会 会 長	岩 沼 北 中 学 校 長	及 川 浩 市
	亘 理 町 校 長 会 会 長	長 瀬 小 学 校 長	渡 邊 美 由 紀
	山 元 町 校 長 会 会 長	山 下 第 二 小 学 校 長	横 山 高 行
	仙 台 南 税 務 署 管 内 会 青 色 申 告 会 連 合 会	会 長	猪 股 弘 志
	仙 台 南 間 税 会	会 長	齋 藤 邦 男
	宮 城 県 仙 台 南 県 税 事 務 所	所 長	及 川 一 芳
	山 元 町	税 務 課 長	齋 藤 剛
会 計 監 事	東 北 税 理 士 会 仙 台 南 支 部	支 部 長	加 藤 靖 仁
	仙 台 南 小 売 酒 販 組 合	理 事 長	藤 原 仁 昭

顧 問	名 取 市	市 長	山 田 司 郎
	岩 沼 市	市 長	佐 藤 淳 一
	亘 理 町	町 長	山 田 周 伸
	山 元 町	町 長	橋 元 伸 一
	仙 台 南 税 務 署	署 長	三 々 田 智

令和5年3月発行

発行者 仙台南地区租税教育推進協議会

事務局：仙台市太白区柳生2丁目28番2号（仙台南税務署内）

（022）306-8001 内線305